

調布市地域情報化基本計画

- 市民の手による e コミュニティづくり -

調布市情報管理課

2004 年 3 月

目次

市長あいさつ	- 2 -
平成 14 年度 調布市地域情報化基本計画策定委員会 委員長あいさつ	- 4 -
平成 15 年度 調布市地域情報化基本計画策定委員会 委員長あいさつ	- 6 -
1. はじめに	- 8 -
2. 調布eコミュニティの創生へ - 「調布市地域情報化基本計画」の素描 -	- 10 -
2.1. 問題解決と協働のためのアーバン・コミュニティ	- 10 -
2.2. 関係力 / コミュニティ・リソースへの着目	- 12 -
3. 調布市地域情報化基本計画の策定方法の特徴 - 手づくりの調布方式 -	- 14 -
4. これまでの調布市の地域情報化への取り組み	- 16 -
4.1. 調布市の概要	- 16 -
4.2. 調布市基本計画	- 16 -
4.3. 調布市の情報化への取り組み	- 20 -
4.4. 調布市地域情報化基本計画が対象とする領域	- 25 -
5. 調布市民の情報化動向 - インターネット利用者アンケートから -	- 27 -
5.1. インターネット利用率	- 27 -
5.2. インターネットへの接続に利用されている通信サービス	- 28 -
5.3. インターネット利用の感想・要望	- 30 -
6. eコミュニティのインフラづくり - 真の情報ネットワーク化を目指して -	- 32 -
6.1. 地域情報ネットワークの環境づくり	- 32 -
6.2. 防犯・防災の基盤づくり	- 37 -
6.3. バリア・フリーへの基盤づくり	- 39 -
6.4. ケータイを使ったインフラ整備	- 42 -
7. ITで実現する元気づける産業 - 進めよう「ITのまち調布」づくり -	- 44 -
7.1. はじめに	- 44 -
7.2. 調布市内の産業の現状	- 44 -
7.3. より総合的な地域産業振興策の必要性	- 51 -
8. くらしを支えるネットワークづくり - 市民の手による地域情報発信 -	- 54 -
8.1. 調布の特性を考えた情報化 - いつでも・どこでも・誰でもできる情報発信 -	- 54 -
8.2. 地域情報化を考えるに当たっての視点	- 54 -
8.3. 調布市のくらしを支援する情報ネットワークの必要性	- 56 -
8.4. デジタル・デバイドの克服と情報リテラシーの育成 - 市民による取り組みの必要性 -	- 57 -
8.5. 地域で情報発信している個と個をつなぐ場(ネットワーク)の提供	- 57 -
8.6. 地域に密着したメディアの積極的活用	- 58 -
8.7. 地域情報データベースの構築	- 58 -
8.8. ITを使った活動支援体制の整備	- 58 -
8.9. ITスキルの向上と地域活性化の相乗効果	- 59 -
9. 知のコモンズとしての図書館	- 62 -
9.1. 情報化の進展と知識化	- 62 -
9.2. 図書館を巡る新たな潮流	- 65 -
9.3. 図書館の新たな機能 - リアル・コモンズとしての図書館空間 -	- 66 -
9.4. 大学図書館との連携	- 71 -
9.5. 地域情報センターとしての公立図書館	- 71 -
10. ITを活用したコミュニティ・レベルでの人づくり	- 73 -
10.1. 生涯学習と地域学習 - IT学習と「調布学」 -	- 73 -
10.2. 地域力の向上に向けた人づくり	- 74 -
11. まとめ - 調布方式による地域情報化の今後のあり方 -	- 79 -
11.1. 「視点」から「手」へ発想の転換	- 79 -
11.2. 地域情報化の発展のための条件	- 79 -
11.3. 調布方式によるこれからの地域情報化への期待	- 81 -
資料	- 83 -

市長あいさつ



調布市長 長 友 貴 樹

IT(情報技術)革命という言葉に象徴されるように、近年のITの急速な発展・普及にともない、わたしたちを取り巻く地域環境も大きく変貌を遂げ、生活の豊かさ、心の豊かさ、コミュニティの創出などにも、情報化が大きく寄与するようになりました。一方で、先進的、かつ高度に専門的な分野であるため、ITを使いこなし活用していくには相応の知識が要求されます。

幸いにも、調布市には、全国の大学の中でも電子・情報分野に特化したユニークな大学である電気通信大学があり、情報通信等に関する最先端の知識、情報の下で、大学を核とした「知」の協働作業を行うための環境にも恵まれております。そのような中で、平成13年5月の「調布市地域情報化基本計画策定に向けての懇談会」からの報告を受け、同14年3月に「調布市地域情報化基本計画策定委員会」が発足し、電気通信大学を中心に、市民、大学、事業者、行政の協働の下、調布市における地域情報化への基本計画づくりが開始されました。

この地域情報化基本計画策定委員会においては、利用者(生活者)ニーズを踏まえた上で情報技術を活用し、「市民が直面する課題や困難を解決したり、くらしやすいコミュニティを創出するため」として、市民(生活者)の「手」による地域情報化を目指し、基本計画策定に向けた取り組みや作業が進められてきました。特に、市民参加の理念の下、多くの皆様に参加をいただき、市民、大学、事業者、行政が協働して、地域に根ざす課題や問題点の解決に1つ1つ手づくりで取り組んでいくという、他にあまり例

を見ない、「調布方式」ともいべき手法によって、ここに地域情報化の基本的な方針である基本計画が策定されるに至ったことは、誠に意義あることと考えます。

今日、市政運営にあたり市民との協働の必要性が強く求められています。行政がまず市民の皆さんに十分な情報提供を行い、それに応じて市民サイドから自由な発想に基づくさまざまな政策提言が発信される。その結果、市民の皆さんが、日々の生活を豊かにするために市役所の機能を利用することが、今後より広範かつ自然に行われるようになるでしょう。ただしその場合、当然のことながら、主体的に市政に関わる度合いが増加するにつれて、市民の方にも政策の遂行過程および結果に対する責任を分担していただかなければなりません。そのような観点から、今回の地域情報化基本計画の策定過程で得たノウハウは、調布市における市民と行政の真の協働を考える上で大変貴重なものと申せましょう。

今後、調布市は、この基本計画に基づき、地域に根ざした調布方式による「eコミュニティ」の構築に取り組んでまいります。どうか、今後の地域情報化の先行事例、モデル事例となるよう、より堅固な協働体制を確立するため、引き続き、関係各位のご理解、ご協力を心からお願い申し上げます。

結びに、本基本計画策定に当たり、多大なるご尽力をいただきました策定委員会の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝と御礼を申し上げ、ご挨拶といたします。

平成16年3月

平成 14 年度 調布市地域情報化基本計画策定委員会 委員長あいさつ



電気通信大学 三木 哲也

21世紀は高度に情報化が進む社会と言われ、わたしたちはすでにその段階に到達しつつありますが、20世紀を代表する工業化社会とはいくつかの点で本質的な違いがあると認識されています。その違いは、情報が広範囲に短時間で流通するようになり、こうした情報の流通が従来よりもはるかに安いコストで可能になったことに起因しています。これにより、国や事業者の体制も大きく変わってきましたが、地域社会の生活、商業・産業、行政などの形態も大きく変わりつつあります。組織主体のピラミッド型社会から個人・生活者を主体とするネットワーク型社会へと、さらに社会のオープン化が進んでゆくものと思われます。このような社会では、個人であれ組織であれ、それぞれの主体性とアカウントビリティがますます重要になってゆくでしょう。それに加えて、IT関連の技術開発や、ITの利用方法は、当分の間は著しくスピーディーに発展し続け、とどまるところが見えていません。

このような情報化の特質を考慮すると、情報化に係わる基本計画を、従来のような市民(生活者)や地域各界の主体性を反映しにくく、上意下達型になりやすい方法でつくっても、実効性が出てこないことは明白です。逆に、最初から全市民の意見を反映したものをつくることを試みても、大きな困難がともないます。

そこで、基本計画策定委員会では、テーマ別にワーキング・グループを作り、そこに極力多くの関心をもつ市民や市内の関係者の参加を得て、十分意見を出し合いながら向かうべき方向を見定めて行く

方法で、議論をスタートしました。情報化時代とは言え、地域情報化に責任を持って参加しようとしても、基礎となる知識や情報が不十分であれば、理想から遠く離れた地点で足踏みをするようになります。これを克服するために、福田先生が担当されたワーキング・グループにおいて、市民が自由に参加できるオープンゼミという形で、必要な知識と情報を精力的に学びながら、テーマ別の議論に参加する方法が採用され、調布市ならではのユニークな成果が得られました。

先にも述べたように、情報化は現在進行形で著しく発展しています。そのことを踏まえて、この基本計画は、あくまで「次のステップを踏み出すための現時点での諸視点のまとめ」と捉える必要があります。引き続き多くの市民、関係者の参加を得て、新しい視点での企画を追加したり、軌道修正を進めていかねばなりません。この地域情報化基本計画が、情報化社会における調布市を一層住みよくし、活性化し、市民が誇りに思える街づくりの力になることを期待いたします。

平成16年3月

平成 15 年度 調布市地域情報化基本計画策定委員会 委員長あいさつ



電気通信大学 福田 豊

今回策定した調布市地域情報化基本計画は、通常地域情報化基本計画書とは全く趣を異にするものです。「調布方式」と称するゆえんです。

まず第一に、構想・策定主体が異なります。通常は、原案作成をいわゆるコンサルティング会社に委託し、出てきた原案を市が委嘱する各方面の代表者により構成される委員会で承認するという手順をとります。実際に計画を練り、執筆するのは、コンサルティング会社に所属するコンサルタントの方であり、それに意見を述べたり修正を求めたりするのは、必ずしも一般市民というわけではありません。

これに対し、本書は、電気通信大学の教員が企画し運営した学習会や検討会に、長期にわたり多数の市民や事業者、市職員、学生諸君が参加して作り上げたものです。また、実際の執筆においても、市民、大学教員、市職員が筆を執りましたが、各部分の調整や増補のみならず、必要な調査までも手がけてくださったのが、途中から参加してくれてほとんどボランティア的な貢献をしてくれた、ある研究所の研究員の方でした。

第二に、本書の構想や執筆に携わった市民には、調布市以外の方もいたということです。調布市の地域情報化計画でありながら、広くコミュニティの情報化という観点から協働を得られたのは、大きな収穫でした。わたしたちの試みの普遍性を示すものでしょう。

これからの地域情報化は、市民(生活者)のための情報化として、市民(生活者)自らの手によって構

想・実施の一部が担われる必要があります。市民の手による構想・実施は、市民や大学、事業者、行政との協働の下、市民の参加による実施へと続くことが容易に見通され、条件も整いやすくなります。

さらに多くの市民(生活者)の方が、この計画書の発展と、情報技術のいわば「市民化」およびコミュニティの創生に参加していただくことを衷心より念じております。

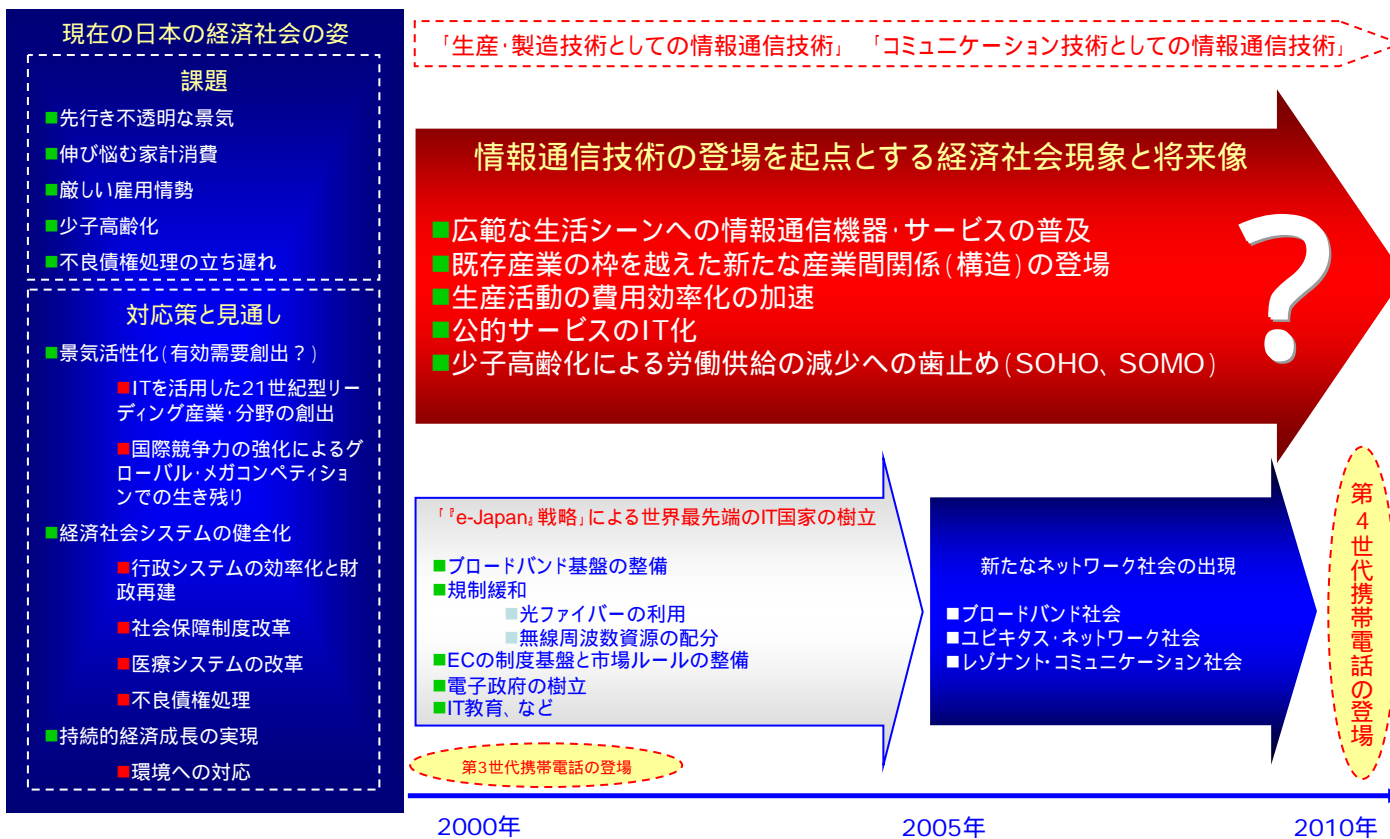
平成16年3月

1. はじめに

情報通信(IT)革命が本格化してから、わたしたちの社会は大きく変化しようとしています。パソコンや携帯電話(ケータイ)の普及、インターネット利用者の増加などに表れているように、情報通信関連機器・サービスは確実に世帯や個人に普及しています。これにともないわたしたちのくらしやしごとなどの場でITが利活用される機会は確実に増えてきています。

これまでの情報化は、先端的な機器やサービスといった情報ツールをうまく使いこなせない人たちが情報化の恩恵を受ける機会を失ったり、生活者のニーズを反映しにくかったりする状況も生んできました。そのため、生活者の視座からの情報化が求められるようになりました。

今回調布市が策定する地域情報化基本計画は、市民の手による地域情報化を目指しています。この基本計画では調布市民のくらしやしごと、学びなど、身近な課題を盛り込みながら、調布市民のくらしを豊かにするための地域情報化のあり方を示そうとしています。



図表 1 情報通信技術を取り巻く環境¹

¹ 永野氏作成。

2. 調布 e コミュニティの創生へ - 「調布市地域情報化基本計画」の素描 -

2.1. 問題解決と協働のためのアーバン・コミュニティ

わたしたちが「調布市地域情報化基本計画」で目指すものをここで素描してみましょう。そのためには、まず「地域情報化」という言葉の定義から出発する必要があります。その使われ方は多様です。

2.1.1. 地域情報化

地域情報化への取り組み開始は、1980年代の初めにまでさかのぼるといわれています。その後、数度にわたるうねりを経て現在に至っていますが、現在ではその内容に次の3分野が含まれています。

- 行政サービスの情報化
- 庁内情報化
- 地域コミュニティの情報化

「地域情報化」が以上の3分野のどれを中心に展開されるかは、そのときどきの情報技術の発展段階と強く関連しています。現在までの展開の方向性は、大まかにいえば、

「『行政サービスの情報化』 『庁内情報化』 『地域コミュニティの情報化』」

ですが、現在でも「電子自治体」構築の推進をもって「地域情報化」の最新段階であるとする立場もあります。しかし、わたしたちは、地域の情報化とは、地域の住人である市民(生活者)が行うものであり、したがって日常的な生活や活動の場面で遭遇したり、直面してきた問題や課題を、情報技術(IT)の手助けにより解決する新たな手法と位置づけています。

2.1.2. 地域コミュニティ

「コミュニティ」ということばは簡単に定義できませんが、わたしたちは「人と人とを結ぶパーソナル・ネットワーク」としてとらえています。ネットワークを支える手段は時代とともに変化し、ネットワークを介して流れるものも、気遣いや思いやり、情報など、どんな時代にも共通するものと、そうでないものに分けることができます。それらはわたしたちの個別的で具体的な生活を取り巻く社会的な環境との相互連関の中で変化するものと考えられます。したがって、いつ、いかなる場合でもコミュニティとは暖かく牧歌的なものであったわけではないということです。

わたしたちはコミュニティのしがらみや拘束に呻吟していた前近代的な諸関係をも知っています。わたしたちの目指すコミュニティとは、いうまでもなくこのような前近代的な(そしてネガティブな)ものではありません。それは、わたしたちの意思によって形作るわたしたちの「未来」というべきものです。調布市の場合、こうしたコミュニティは地域的特性から「アーバン・コミュニティ(都市的コミュニティ)」と表現することができますでしょう。

2.1.3. 問題解決と現代のプロメテウスの火²

「地域情報化」も、いわゆる「情報化」の一種であり、「情報化」現象の流れの中にあります。このことは情報化現象として、これまでの情報化現象と共通する部分があることを示唆しています。その最大のものが「問題解決」ということです。

これまでの情報化の歴史は情報技術(IT)を利用して、問題解決を行ってきた歴史でした。解決される問題群は、情報技術の発展に依存して変化してきました。(別の表現をすれば情報技術は問題をつくり出すということにもなります。)

今、情報技術は市民(生活者)が所有する道具箱の中の一つのアイテムになりました。この新たな道

² プロメテウスは人間と動物をつくり出したギリシア神話の神の1人です。ゼウスに背き、人間に火(一切の技術(たくみ)の元の閃(ひら)めく火花)を与え、人間は知恵を得ることになります。怒ったゼウスは災いの元となるパンドラを人間に送り付け、プロメテウスに責め苦を与えますが、のちにヘラクレスによって救出されます。人間はプロメテウスから火を受け取った代わりに、未来を予測する能力を失ってしまいます。(アイスキュロス著、呉茂一訳『縛られたプロメテウス』岩波書店、1974年。)

このたとえ話によれば、ITは市民の知識や知恵の源となります。しかしながら、同時に、必ずしも望ましくない事柄の原因ともなります。ITは万能ではなく、使い方は市民の手に委ねられています。そのため、日常のくらしやしごとの場で見出される問題や課題を解決するための手段(道具)として、地域情報化に対して、市民自らの手による主体的な取り組みが必要となるのです。

具をどう使いこなすか、市民(生活者)の力量が問われることにもなるでしょう。

そのような意味では、情報技術は、現代の「プロメテウスの火」にたとえられます。それは現代の持つ光と陰を際限もなく増幅して、むしろ最終的には大きな厄災をもたらす可能性があります。しかし、他方では、これまでの文脈に新たな文脈をつくり込むことを可能にして、新たな社会環境や社会システムの叢生に寄与する可能性もあります。しかも、それを市民(生活者)の手によって…。

2.1.4. 新たな問題群

わたしたちが生活日常で直面する新たな問題群は、世界的な都市化現象に共通する面があります。都市化がもたらす利便性や快適性、文化性と引き替えに、環境の悪化、人間関係の荒廃などが深刻化しています。一方で都市化が避けられないとすれば、都市の機能不全は、コミュニティによってのみ救われます。具体的には、わたしたちの生活という切り口で、この世界的な傾向を表現できます。

わたしたちが、解決しなければならない問題の特性としては、それがきわめて個性的で個別的な性格を持つようになってきている点があります。このようなケースに対しては、民間事業者や行政では十分に対応できないことが多く見受けられます。他方では、世帯の小規模化などにより、個人での対処にも絶対的な限界があります。ここに「人と人とを結ぶパーソナル・ネットワーク」としてのコミュニティが必要となります。

また、わたしたちが直面する問題群への解決策は、わたしたち自身が構想してこそ有効で効果的なものになります。これまでは誰かに依存して解決してもらったり、受動的に解決を待っていたりしました。これからの問題解決には、わたしたちが自律的に、そして、主体的に取り組む姿勢が必須となります。その姿勢が新たな社会環境や社会システムの形成の必要条件であることを、わたしたち市民(生活者)は認識する必要があります。

2.2. 関係力 / コミュニティ・リソースへの着目

コミュニティとは「パーソナル・ネットワーク」の総体です。パーソナル・ネットワークは、従来から様々な

資源を運んできました。アーバン・コミュニティにおいても同様ですが、問題や課題の種類に応じて、また、技術的な状況に依存して、運ばれる資源や利用される資源には変化が見られます。

アーバン・コミュニティの重要な資源の一つに、貨幣価値に換算できない「財」があります。具体的には、ボランティア的な貢献、思いやり、愛情、勇気、信頼、等です。これらは、貨幣価値に換算できる通常の経済財と同様に人々のふるまいの機動力となり、エネルギーともなる(したがって「行為財」とか「関係財」とかと言われることもある)ものですが、貨幣価値換算が不可能であるために、従来の経済システムや社会システムにおいては正当な評価を受けてきませんでした。

このような資源は、しかし、経済財と同様に地域コミュニティの活性化のために重要な働きをするものであり、その意味で、「コミュニティ・リソース」とでもいうべきものです。わたしたちが目指すアーバン・コミュニティは、コミュニティ・リソースの調達を適切に行い、場合によってはその開発をも実現できるものであるべきです。

コミュニティ・リソースの開発は、コミュニティの成熟そのものによっても促進される面がありますが、重要なのは、そこに最新のコミュニケーション技術が関与し有効な機能を果たすことができるということです。最新のコミュニケーション技術は、情報技術の発展から生み出されたものです。具体的なツールとしては、インターネットを用いたメールやメーリング・リスト、電子掲示板、電子会議室、等です。

これらの新たなメディアは、CMC(Computer Mediated Communication / コンピュータによって媒介されたコミュニケーション)とも呼ばれています。その特性は、(1)非同期性、(2)脱大衆性、(3)双方向性にあるといわれています。また、これらの新たなメディアは、人と人との「関わり」のあり方に影響を与え始めています。ねばり強く相手との相互理解を求める力が強化されることにより、人と人との間の「関係性」が形成され、そこにコミュニケーション・リソースが蓄積されていくことになるのです。

3. 調布市地域情報化基本計画の策定方法の特徴 - 手づくりの調布方式 -

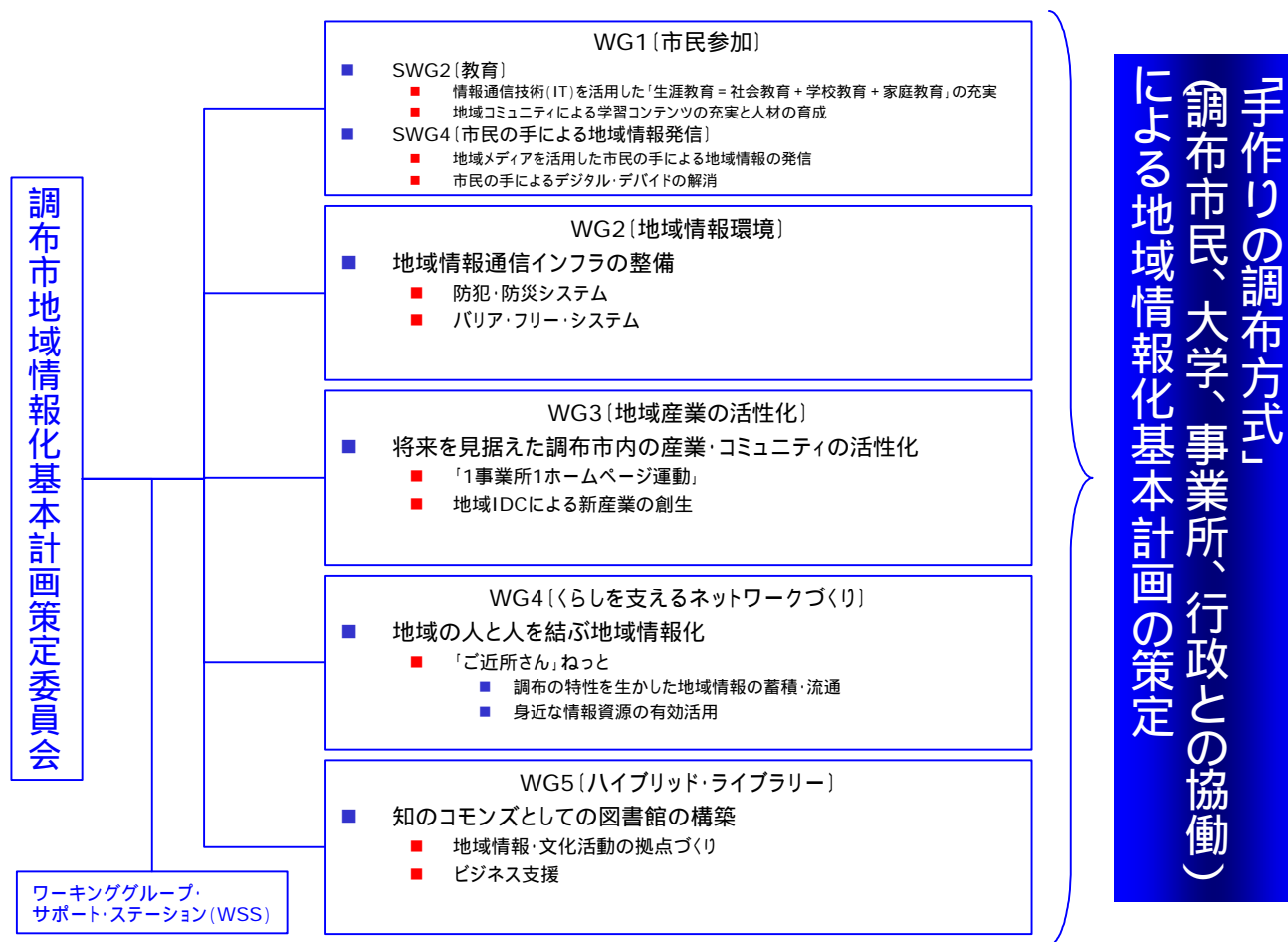
地域情報化は、市民やコミュニティの住人が、直面する課題や困難を解決したり、住みやすくくらしやすいコミュニティを創生したりするために、情報技術を活用することを指しています。調布市地域情報化基本計画は、そのような地域情報化の進め方の基本的な方針を定めるものです。

その目的達成のために、調布市地域情報化基本計画策定委員会では以下の4つの取り組みを実践することにしました。いずれも、これまでの全国の地域情報化基本計画には見られないものです。

- 市民(生活者)の「視点」と「手」による地域情報化ビジョンづくり
- 市民、大学、事業者、行政の協働作業
- 実施計画との連携・接続
- 計画化・実施に取り組む継続的な体制づくり

調布市地域情報化基本計画策定委員会では、市民や大学、事業者、行政などの持つ知識やノウハウを集結させ、より現実的かつ有効性の高い基本計画の策定を目指すことを基本的な方針としてきました。こうしたコミュニティ・リソースの活用による基本政策づくりは、調布市でも先例が少なく、様々な困難と試行錯誤に満ちていました。また、既成の行政システムから逸脱したり、従来タイプの市民活動と衝突したりすることも予想されました。

しかし、それこそ、情報という視点や切り口から、問題を提起し解決を探ることの最大のメリットです。既存の社会的コンテキスト(文脈)に修正を迫るそのポテンシャルは、同時に、市民(生活者)にこれまでとは違う主体性を求めるものでもあるでしょう。それは、常に学び、現実に関与(参加)し、他者との関係をねばり強く形成し、討議する「強い市民」です。わたしたちの挑戦は、優れて調布的ですが、今後の地域情報化の先行事例としてモデルともなりえます。



図表 2 調布市地域情報化基本計画策定委員会の構成と主な検討内容³

³ 調布市地域情報化基本計画策定委員会資料に基づく。

4. これまでの調布市の地域情報化への取り組み

4.1. 調布市の概要

調布市は、東京都のほぼ中央、多摩地区の南東部に位置し、都心へ約20キロメートルの距離にあり、人口は20万人に達しています。通勤・通学の足を支える運輸インフラとしては、市の中央部を東西に走る京王線と、国道20号線(甲州街道)、中央自動車高速道路があり、これらを中心として市街地が広がっています。

市の面積は21.53平方キロメートルであり、東京都総面積の約1%にあたります。

調布市は歴史、教育、そしてスポーツを中心とした文化都市です。市内には深大寺をはじめとした武蔵野の歴史と数々の史跡があちこちにあります。また、大学(電気通信大学、東京外国語大学、桐朋学園大学、白百合女子大学など)やその他研究教育機関が数多く存在しており、学園都市が形成されています。さらに、2002年ワールドカップ公認キャンプ地でもあった味の素スタジアムのほか、さまざまな施設を中心にスポーツ文化も盛んです。

4.2. 調布市基本計画

調布市基本計画は、21世紀のまちづくりを目指した第4次基本構想を具体化するために求められる基本的な政策の方向性を示すものとして策定されています。調布市の将来像を実現するためには、市民をはじめ、NPO、大学、事業者などと行政との連携や協働が不可欠です。基本計画は市民が主役のまちづくりを実践することの必要性を示しています。

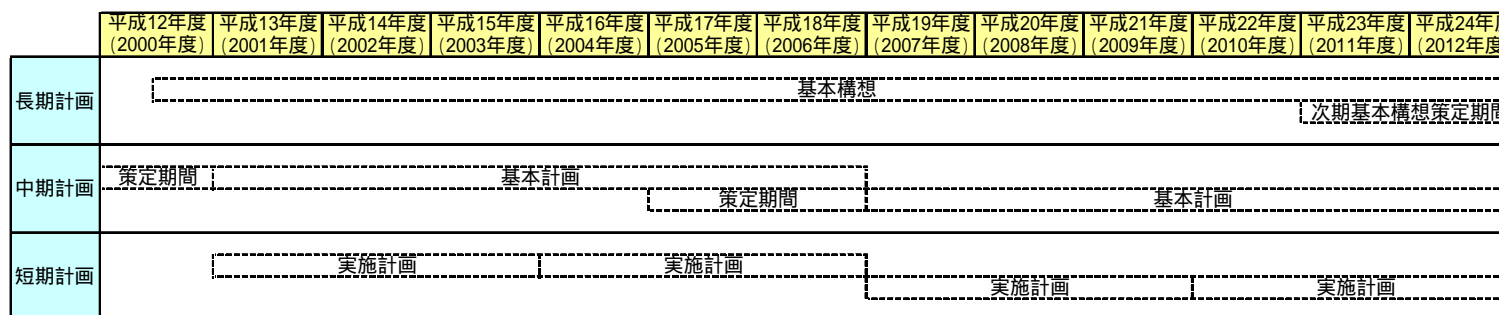


図表 3 調布市の位置⁴

⁴ 調布市作成資料に基づく。

	第1次基本構想	第2次基本構想	第3次基本構想	第4次基本構想
議決月日	昭和47年12月28日	昭和56年2月28日	平成元年6月15日	平成12年6月20日
まちづくりの目標 (将来像)	『あたたかい心のきずなと緑の風かおる都市環境の整った、新しい「ふるさと調布」』	『快適で緑豊かな都市環境とあたたかい心のきずなで結ばれるみんなのまち調布』	『すてきにくらしたい・愛と美のまち調布』	『みんながつくる・笑顔輝くまち調布』
基本理念	市民生活を健康で快適なものにするまち 市民の連帯と自治によるまち 市民の創造力と科学性が発揮されるまち	ふれあいと連帯 自主性と自立性に基づく参加 創意と工夫	自立性を高めて活力あるまちづくり 快適さをひろげて魅力あるまちづくり 交流をふかめて飛躍するまちづくり	○平和な社会の実現 個の尊重 良好なコミュニティの形成 自然との共生
施策の基本的方向または 基本目標	健康な家庭のだんらんのある市民生活 まちかどに人の輪があるコミュニティ わこごの未来を育てる文化 緑の中につつまこまれるまちなみ 快適な住宅都市にふさわしい都市施設	快適な生活をささえる都市基盤の整ったまち 恵まれた環境で生活できるまち 心がかよいいあい安心して生活できるまち 豊かな文化と躍動するスポーツのまち 活気に満ちた魅力あるまち 市民の創意と連帯感あふれるまち	ゆたかな文化と人を誇れるまちづくり 心がかよよう幸せあふれるまちづくり くらしよく活気に満ちたまちづくり うるおいとつろぎのあるまちづくり 美しく調和のとれたまちづくり ふれあいの輪がひろがるまちづくり	いきいきと元気なひとづくり 住み続けられるくらしづくり 人が集まる楽しいまちづくり
目標年次	昭和60(1985)年 (13年間)	昭和65(1990)年 (10年間)	平成13(2001)年度 (12年間)	平成24(2012)年度 (12年間)
人口規模	20万人	20万人	25万人	20万人都市

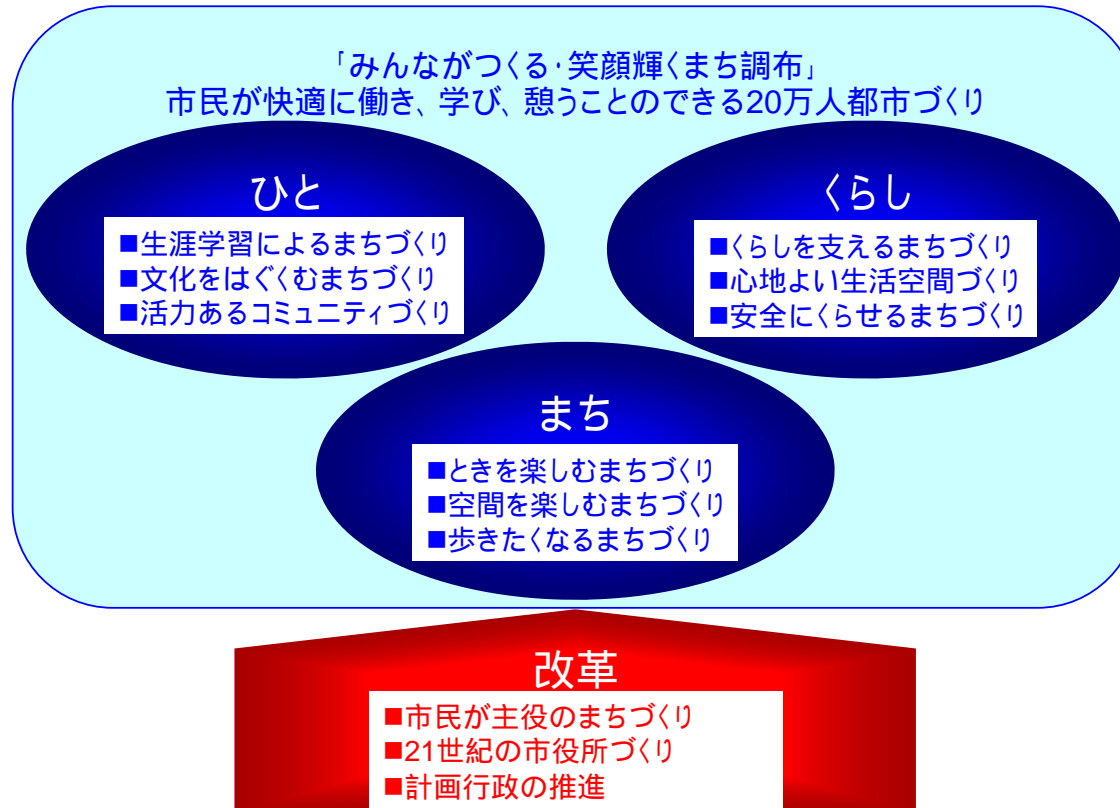
図表 4 基本構想策定の流れ⁵



図表 5 基本構想、基本計画、実施計画の計画期間⁶

⁵ 調布市作成資料に基づく。

⁶ 調布市作成資料に基づく。



図表 6 調布市基本計画の概要⁷

⁷ 調布市作成資料に基づく。

調布市基本計画は、少子高齢化、地球環境問題、分権型社会、そして情報技術革命といった社会環境の変化に対応しながら、コミュニティの活性化や福祉・防災・運輸・教育基盤の整備などの実現を目標としています。あわせて、長期的視点に立脚した合理的・計画的な行財政運営として、計画策定、事業実施、評価、改革のサイクルの確立、施策の効果の測定をともなったきめ細かで実効性の高い計画行政の推進、そして基本構想の実現に向けた行財政の改革と運営も盛り込まれています。

4.3. 調布市の情報化への取り組み

4.3.1. 地域情報化の流れ

市民ニーズを反映した質の高い行政サービスを効率的に提供することを目的とした行政分野での情報化は、インターネットや携帯電話の普及を中心とした現在のIT革命が起きる以前から着々と進められてきています。

都道府県で見ると、昭和38年(1963年)に東京都と神奈川県が初めて電子計算機を導入しました。その後、昭和46年(1971年)から全ての都道府県が利用するようになりました。

市町村では、昭和35年(1960年)に大阪市が初めて電子計算機を導入しました。昭和56年(1981年)から特別区を含む全ての市が電子計算機の利用団体となりました。

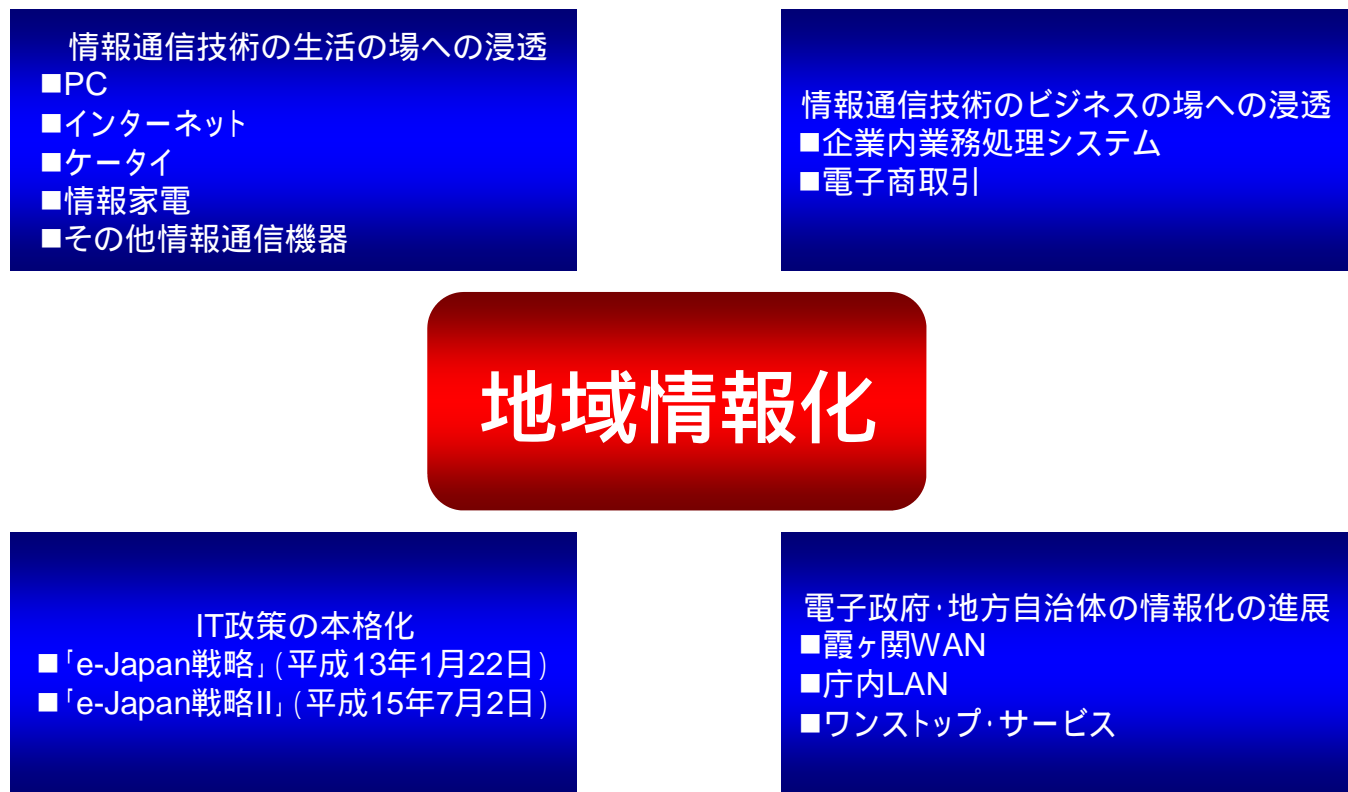
行政分野での情報化は、ITの活用を行政の組織活動に不可欠なものとして定着させながら、「行政の質の高度化」と「市民サービスの質的向上」を実現することを目指しています。その中では、以下の効果が期待されています。

- 行政内部のコミュニケーションの円滑化
- 情報の共有化による政策決定の迅速化・高度化等行政運営の質的向上
- 情報の共有化による地域市民への一層の情報提供
- 行政手続の効率化

行政分野での情報化の意義に関しては、地域市民や事業者による地方行政に対するニーズの質的な高度化等が背景にあります。また、行政情報の公開も求められています。

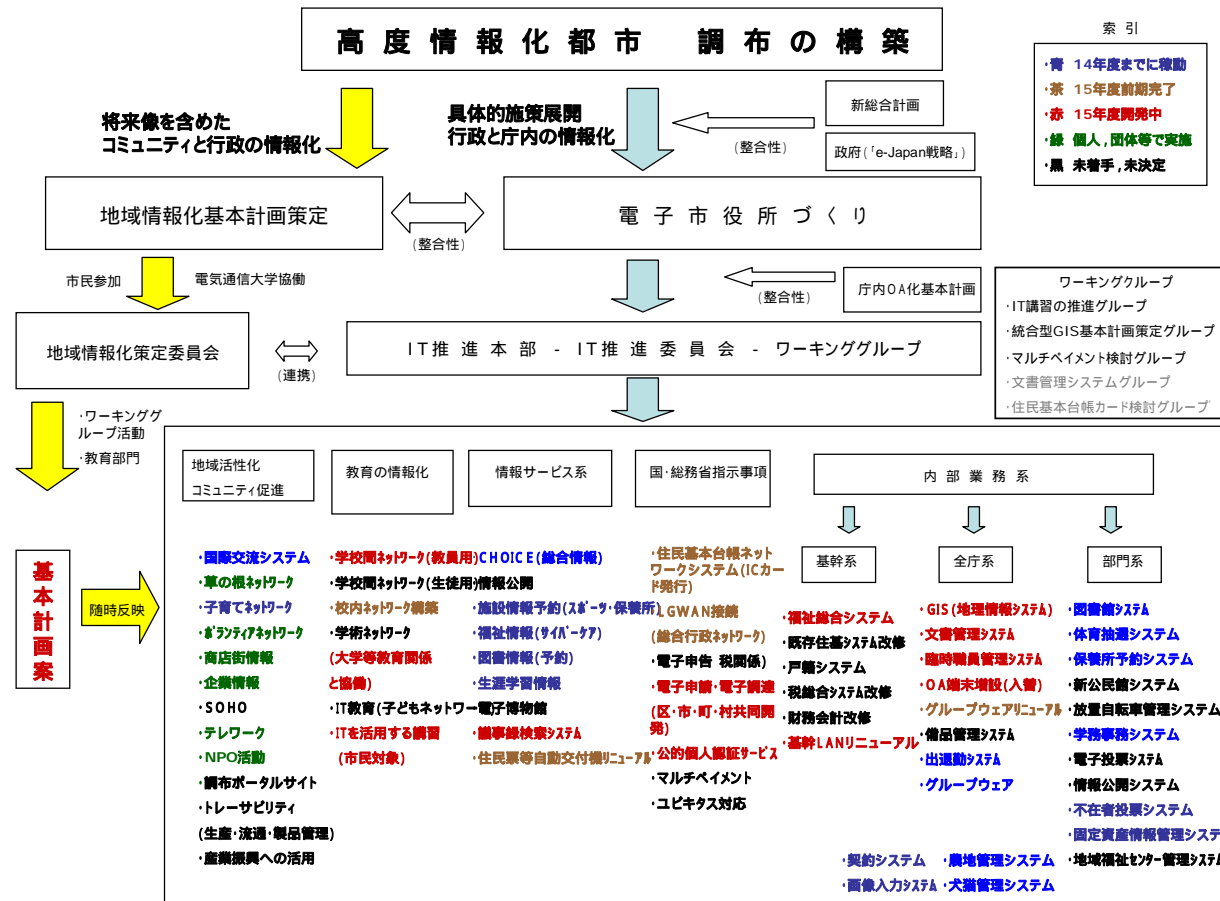
行政内部での情報化は、都道府県では、給与、会計経理、自動車税、個人事業税、法人事業税、法人県民税などに係わる業務で積極的に進められてきました。市町村でも市民税、固定資産税、国民健康保険税、軽自動車税、国民年金、民記録などの電算処理が導入されてきました。こうした情報化は、市民記録、印鑑登録証明、各種検診等、市民に直接サービスを提供する分野を含んだ形で展開されています。

現在、行政分野の情報化は、世界最高水準のIT国家の樹立を目指す「e-Japan戦略」(平成13年1月22日)や「e-Japan戦略II」に基づいて、国と地方自治体との間で連携を保った形で進められています。今後、地域市民のくらしやしごとなどに関するさまざまな情報がやりとりされることで、行政が提供するさまざまなサービスに対する満足度も高まると期待されることから、行政情報化と地域情報化とを統合した形での取り組みが求められます。調布市の情報化もこうした流れに沿って進められています。



図表 7 地域情報化を取り巻く環境⁸

⁸ 永野氏作成。



図表 8 調布市の情報化の概要⁹

⁹ 調布市作成資料に基づく。

4.3.2. 市民協働社会の実現とITリテラシの形成

調布市では「みんながつくる・笑顔輝くまち調布」を都市目標として掲げ、市民との協働による市民が主役のまちづくりを推進しようとしています。このためには、ホームページなどによる「市政情報の積極的な公開」や「市民の意見を積極的に取り入れる取り組み」、IT講習会などによる「地域の人的資源の発掘と自主的な活動の支援」が必要・不可欠です。そのため、情報通信基盤を整備することと、その利活用に必要な技術や知識を習得する機会(ITに親しむ機会)を提供することが求められます。

こうした市民との協働システムを確立するためにも、単に行政の情報が市民に対して公開されるだけでなく、市民からの情報も、「市民 - 市民」間や「市民 - 行政」間で流通・活用される必要があります。こうした情報の流れは、これまでの「市民『対』行政」という関係にとどまらず、地域コミュニティの形成・活性化に資すると期待されます。さらに、地域経済の活性化といった観点からは、ビジネス・チャンスの(再)発見や商圈拡大の可能性も秘めています。

情報の受信者・発信者双方のITリテラシの形成はeコミュニティを形成するための要といえます。特に、くらしやしごとの中でITに親しむ機会が少ない市民を支援し、デジタル・デバインド(ITリテラシを習得していないために、本来くらしやしごとのために知っておくべき情報を入手できないことから生み出される格差)が生じないようにするためには、市民や大学、事業者、行政が協働して、その解消に向けて取り組む必要があります。

4.3.2.1. 協働社会実現に向けて

市民のくらしやしごとの場において、ITは問題を解決するための強力な道具・手段です。行政サービスの向上に向けて各自治体が電子自治体の実現に努めている中、市民のくらしやしごとの質を向上させるこうしたサービスを楽しむためにも、ITリテラシは不可欠になりつつあります。ITリテラシを高めるためのIT講習などの機会は、雇用の創出、市民・大学・事業者・行政などとの協働体制の確立、地域コミュニティの活性化、地場産業の再活性化、生涯学習の促進などに寄与するでしょう。

市民協働社会の実現には、生活者同士のコミュニケーションが欠かせません。地域におけるITリテラ

シを高め、市民・大学・事業者・行政の協働を深め、地域コミュニティに潜在する多くのリソースを最大限に活用することが、地域情報化を通じた協働社会の実現のために必要です。

協働型事業の担い手としては、民間事業者や、大学等の高等教育機関、市民ボランティア等が想定されます。市民や大学、事業者、行政などが情報共有を図り、協働を積み重ねながら、地域情報化を進め、コミュニティ・リソースが大いに活用されることが望まれます。

4.4. 調布市地域情報化基本計画が対象とする領域

調布市地域情報化基本計画で取り上げた課題や問題群は、従来の基本構想や基本計画、すでに実施に移された諸施策に対する見直しや改善、追加を含んでいます。情報通信技術はくらしやしごとのさまざまな場面に影響を与える可能性を秘めたツールとして期待を集めています。そのため、市民の目から見た地域情報化の姿を示唆することが、従来の基本構想や基本計画などが目指す調布市の将来像を実現するために情報通信技術が担うべき領域を一層明確化することにつながります。

市民が主役となった、まちづくり・ひとづくり



図表 9 コミュニティ・リソースの活用¹⁰

¹⁰ 永野氏作成。

5. 調布市民の情報化動向 - インターネット利用者アンケートから -

地域情報化を進める上で、調布市の情報化の現状を把握しておくことが何より重要です。市民くらしやしごとの場でまさに求めている情報をどのようなシステムで流通させるのかということを考えていく上で、限られたリソースを優先的に配分することが必要な領域を明確にしなければなりません。そのためにも、調布市民が現時点でどのようにITを利活用しているのかを知っておく必要があります。

調布市民はインターネットをどのように利活用しているのでしょうか？調布市地域情報化基本計画策定委員会ワーキング・グループ2が平成15年(2003年)4月に行ったアンケート調査結果から、調布市民のインターネット利用動向を明らかにしていきます。

5.1. インターネット利用率

全国ベースで見ると、インターネットの利用者数は平成14年(2002年)末には6,942万人、人口普及率は54.5%に達しています。81.4%の世帯に普及しているほか、98.4%の企業や79.1%の事業所でもインターネットは利用されています。くらしやしごとの場で、インターネットは不可欠となっていることがわかります。

	平成9年末	平成10年末	平成11年末	平成12年末	平成13年末	平成14年末
利用者数(万人)	1,155	1,694	2,706	4,708	5,593	6,942
人口普及率(%)	9.2	13.4	21.4	37.1	44.0	54.5

図表 10 インターネット利用人口の推移(全国ベース)¹¹

¹¹ 総務省「平成14年通信利用動向調査」(平成14年12月実施)、に基づく。

(単位: %)	平成 9 年末	平成 10 年末	平成 11 年末	平成 12 年末	平成 13 年末	平成 14 年末
世帯	6.4	11.0	19.1	34.0	60.5	81.4
企業(300人以上)	68.2	80.0	88.6	95.8	97.6	98.4
事業所(5人以上)	12.3	19.2	31.8	44.8	68.0	79.1

図表 11 インターネット普及率の推移(全国ベース)¹²

調布市地域情報化基本計画策定委員会ワーキング・グループ2が平成15年(2003年)4月に行ったアンケート調査では、調布市内の回答者世帯の62.5%がインターネットを利用していることがわかります。過半数の世帯がインターネットを利用していることとなります。インターネットの利用を検討している回答者世帯が3.1%にすぎないことから、今後地域情報化を進め、インターネットの利用を促していくためには、現在インターネットを利用していない世帯に普及させていく取り組みが必要となります。

	利用していない	利用を検討中	利用している	未回答	合計
回答数(件)	131	14	282	24	451
回答率(%)	29.1	3.1	62.5	5.3	100.0

図表 12 調布市のインターネット利用率

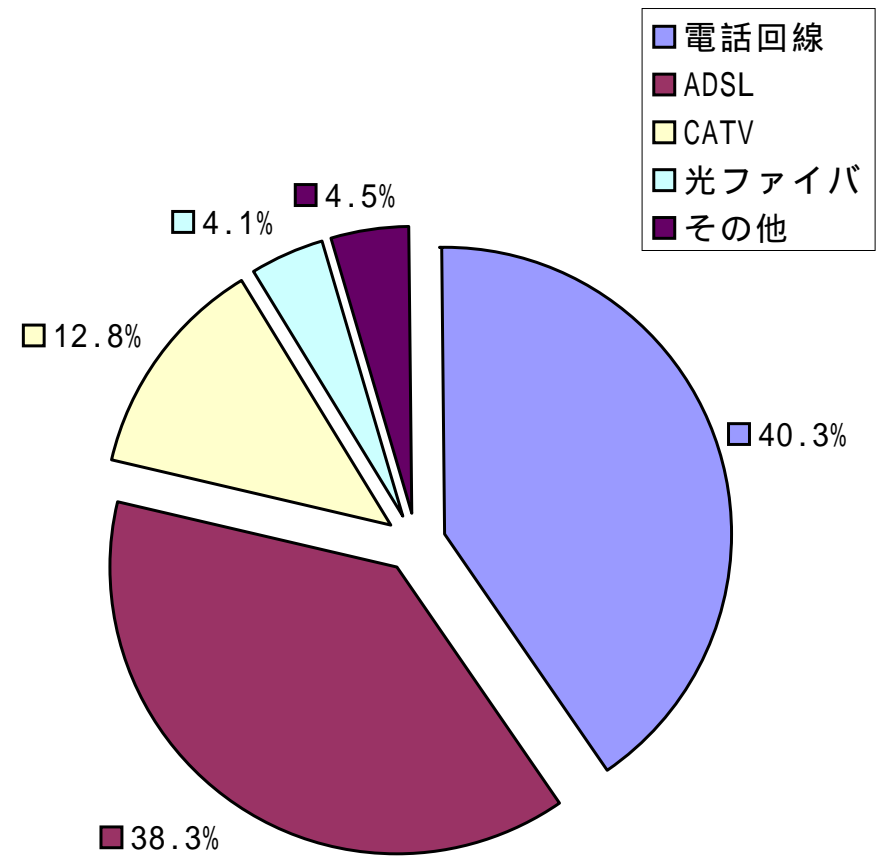
5.2. インターネットへの接続に利用されている通信サービス

インターネットへの接続に利用されている通信サービスとして、従来の通信サービスよりも高速・大容量通信が可能なADSLや光ファイバといったブロードバンド・サービスが今後中心的に利用されていくと予想されています。ブロードバンドの世帯への普及状況を見ると、平成14年12月時点で31.1¹³%に達しています¹⁴。調布市では、ADSLが38.3%、CATVが12.8%、光ファイバが4.1%のインターネットを利用している回答者世帯に普及しています。ブロードバンド・サービスが着実にインターネットを利用している世帯に普及しているようです。

¹² 総務省「平成14年通信利用動向調査」(平成14年12月実施)、に基づく。

¹³ 総務省「平成14年通信利用動向調査」(平成14年12月実施)、に基づく。

¹⁴ 財団法人インターネット協会「インターネット白書2003」インプレス、2003年(平成15年2003年2月実施)、によれば、ブロードバンドの世帯普及率は39.3%に上っています。



(N=282)

図表 13 インターネットへの接続に利用されている通信サービス(調布市民の場合)

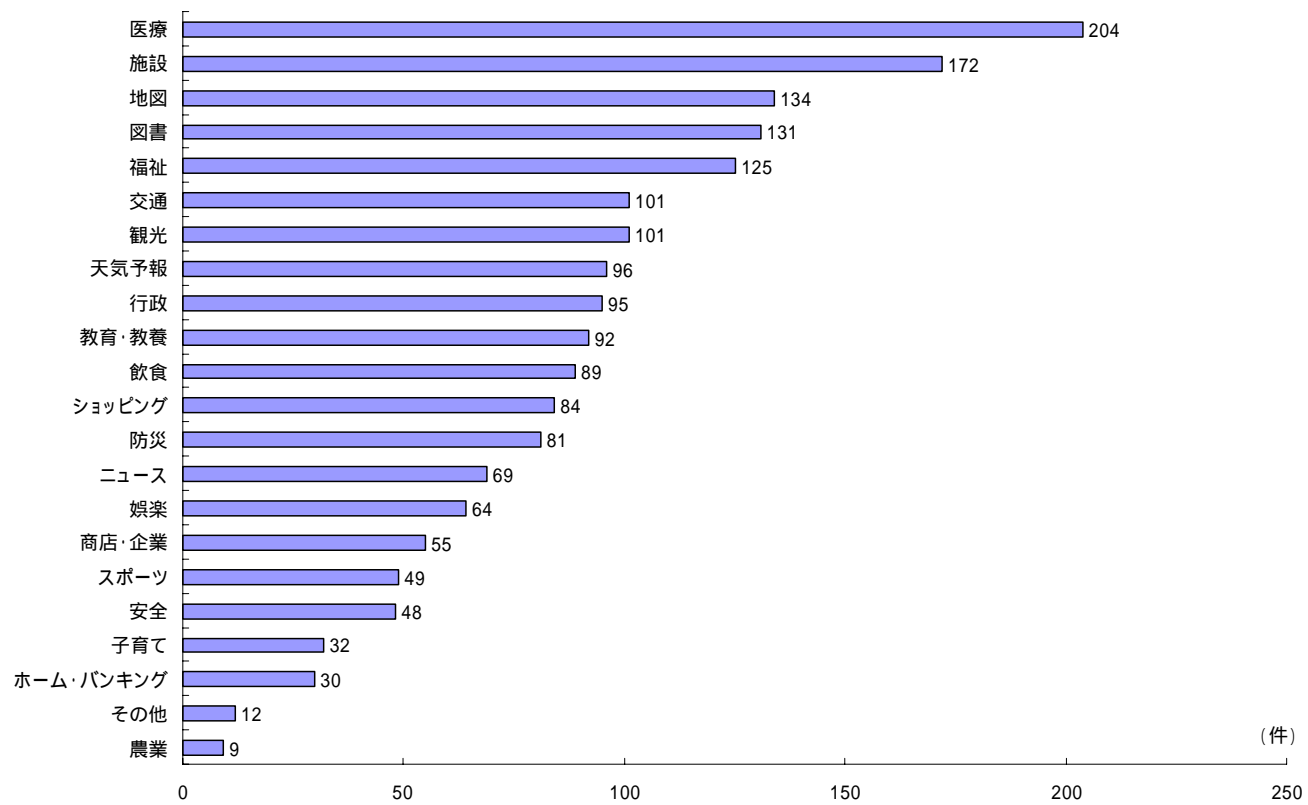
5.3. インターネット利用の感想・要望

調布市民がインターネットをはじめたきっかけを見ると、「友人の輪を広げたい」、「情報収集」、「ホームページの開設」、「電子商取引の利用」などが理由として挙げられています。インターネットやパソコンに興味を持ち、くらしやしごとに関わろうと考えてインターネットをはじめたことがうかがわれますが、実際の使用感は、インターネットと付き合う時間が長くなるほど変化しています。

「ハードウェアやソフトウェアの技術革新のスピードについていけない」、「家電製品のような使いやすさが欲しい」、「使い方がわからない場合に気軽にたずねられる人が周囲にいない」といったように、インターネットを自在に駆使して情報の収集や発信を行うことの難しさがあるようです。また、「個人情報の漏洩やウィルスへの感染が心配」という、セキュリティ面での不安にもさらされてしまうようです。

インターネット上で利用可能な地域情報については、行政情報の充実が求められているようです。市役所でのサービスのほか、防災情報や病院・診療所の情報など、市民のくらしの安全に係わる情報サービスの充実が求められています。また、「調布市が行うイベントや講習会の情報をわかりやすく提供してほしい」、「市民と調布市が市政などについてコミュニケーションを図る場が欲しい」といった要望もあります。

情報通信技術が単なるサービス向上のためだけではなく、市民と行政との協働を実現するための手段としても期待されていることがうかがわれます。



(N=1,873(複数回答))

図表 14 調布市民が IT を活用して利用を希望する地域・生活情報

6. e コミュニティのインフラづくり - 真の情報ネットワーク化を目指して -

6.1. 地域情報ネットワークの環境づくり

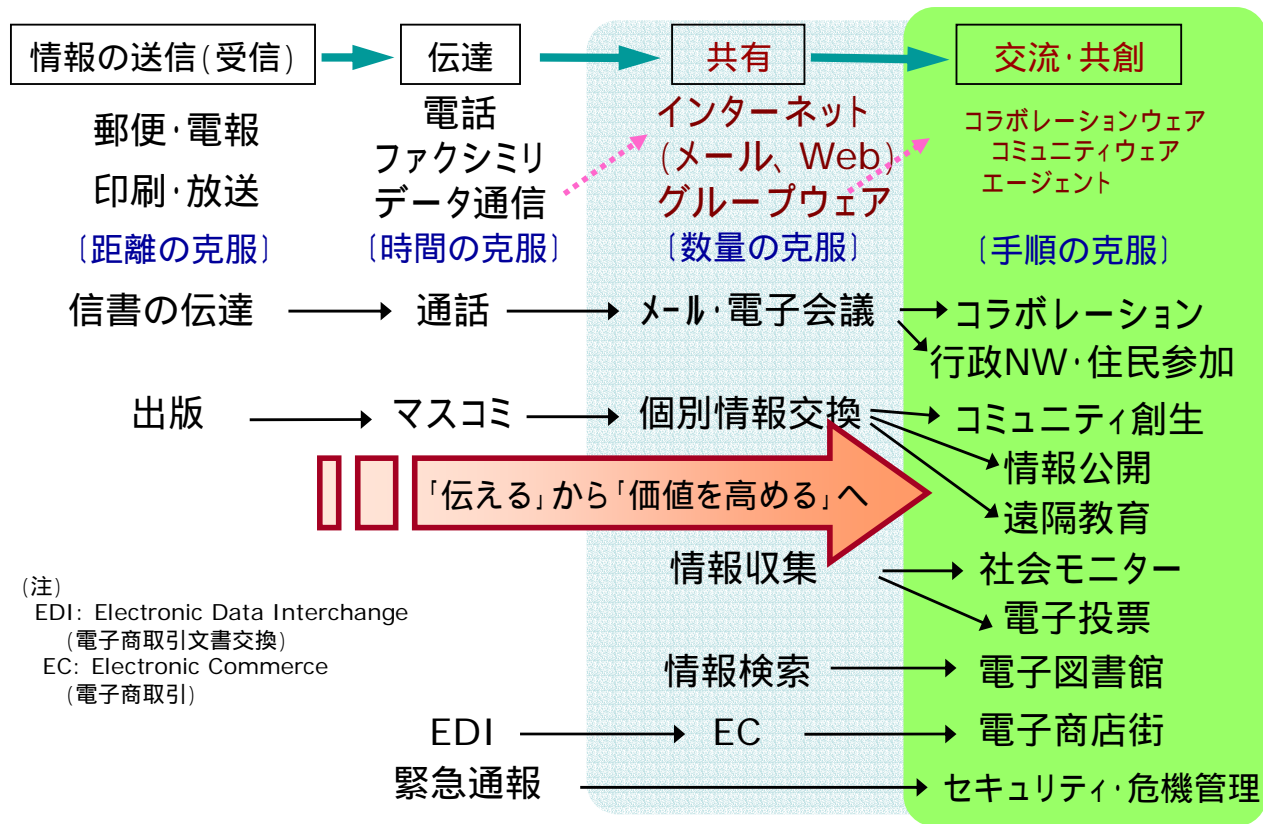
6.1.1. 情報メディアの発展 - 情報の共有そして情報の交流・共創へ -

技術と社会の進歩によって、情報メディアの主たる機能は、段階的に発展してきました。現在はワイヤレス移動通信やインターネットの急速な普及により、いつでも、どこでも情報を入手できることから、ネットワーク上に仮想的な情報を共有する場がつけられ、それを利用する環境が拡がりつつあります。

情報メディアは「情報の共有」から「情報の交流」の段階へと発展しつつあります。今後は、情報交流の機能をさらに深めて情報の付加価値を高めるレベルへ発展していくでしょう。このように発展した情報メディアは、「情報の共創」を実現するものとしてとらえることができます。

「情報の交流」や「情報の共創」は地域情報化が進むにつれて具現化していきます。そのためには、市民と行政の協働、産業分野での情報交流、地域情報拠点としての図書館、地域レベルでの人づくり・生涯教育、医療・福祉、防災・防犯に対応した予知・緊急通報など、くらしやしごとで求められるさまざまな環境の整備が必要です。

電話に代表されるような単に「伝える」ことを役割としていた時代には、ネットワーク機能は、ユーザや地域の違いに依存しない汎用的なものでした。しかし、インターネットや組織内LANなどを含んだこれからのネットワーク機能では、ユーザ、利用目的、地域などの違いによって、望まれるネットワーク環境が異なります。そのため、地域の特性やコミュニティの目的にかなう情報環境を、市民と行政が協働してつくり上げてゆくことが重要です。これからの情報メディアや地域情報化の進展は、市民の意思や、コミュニティや行政における情報アクティビティ(情報の活用の度合い)と表裏一体の関係にあります。



図表 15 情報メディアの発展:情報の共有から情報の交流・共創へ¹⁵

¹⁵ 三木氏(ワーキング・グループ 2、電気通信大学)作成。

6.1.2. e コミュニティの活性化に必要な情報環境の構築

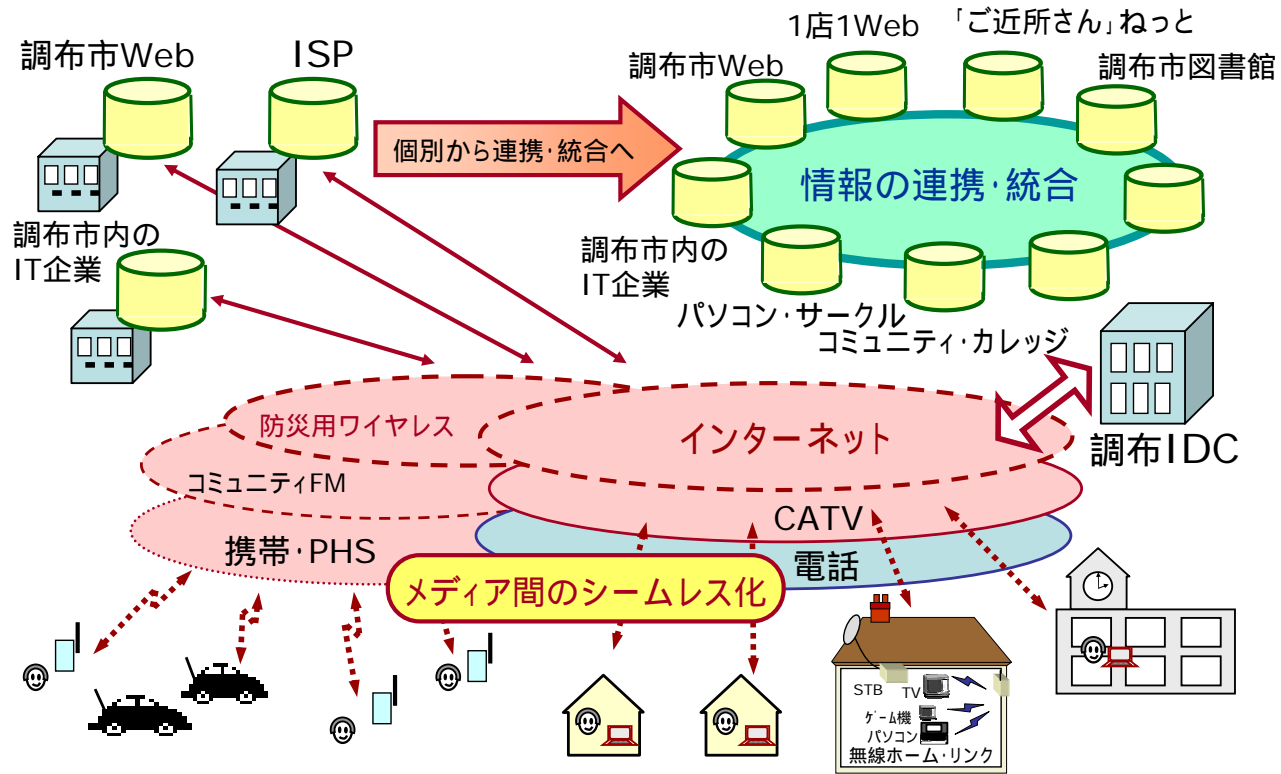
生活者の生きがいや問題解決の場となるコミュニティに対して、情報メディアを利用して必要な情報の共有や交流、共創がなされる環境をつくり上げてゆくことが、地域情報化の大きな目的の一つです。既存の情報メディアでは、歴史的にそれぞれの役割を持って発展してきた結果、情報はそれぞれ独自に収集され利用されています。今後は、ブロードバンド・インターネットが普及するにつれて、インターネットを介した情報の共有や交流が支配的になり、既存メディアのつなぎ役をも担うようになるでしょう。そのためにも、それぞれのメディアやコミュニティ、組織、個人が保有しつくり出している情報を、連携・統合して利用者が最も利用しやすい方法で入手できるメカニズムを構築する必要があります。

ブロードバンド・インターネットでは、映像を含むマルチメディア情報によって、リアルタイムでの情報の共有や交流が可能となります。こうした情報通信環境を活用しながら、市民のサークル活動や行政サービス、図書館サービス、医療・福祉サービス、商業、教育、防災・防犯、などの情報を有効に連携・統合し、利用しやすくしていくことが、地域情報化に求められることとなります。

このための有効な手立てとしては、情報の生成、サーバの運用・管理の場としてのIDC (Internet Data Center) が挙げられます。地域社会が公共IDCを持ち、コミュニティ、行政、産業・商業、学校などがこれを使いこなし、情報ネットワークのセキュリティを自ら確保していくという構図で地域情報化が進められることとなります。また、インターネットをはじめ、地域の情報メディアを状況に応じて有効に活用していくためには、ユーザから見てこれらがシームレスに利用できる環境を整えることが必要です。

さらに、ユーザのスキルや、コミュニティの特質にあわせて情報メディアの利用とカスタム化を支援する仕組みが求められます。個人、商店、コミュニティなどの利用者が必要とするWebページを特別なスキルなしに作成したり、講演やイベントのリアルタイム情報を容易に配信したり、ユーザの端末利用に必要なリテラシーをネットワーク経由で提供したりといった支援システムを市民や大学、事業者、行政が協働で構築・運営していくことが求められるでしょう。

真の情報ネットワーク化の推進



図表 16 eコミュニティの活性化に必要な情報環境¹⁶

¹⁶ 三木氏(ワーキング・グループ 2、電気通信大学)作成。



地域メディア連携体制

ユーザ、通信・放送事業者、行政の協力体制

ユーザ、コミュニティへの地域メディアのカスタム化

ユーザ、コミュニティへの支援体制

図表 17 メディアを連携させた地域情報ネットワークの環境づくり¹⁷

¹⁷ 三木氏(ワーキング・グループ 2、電気通信大学)作成。

6.1.3. メディアの特質を生かした生活・緊急情報の共有・交流

上記のような地域の情報環境を構築する上で、特に安全・安心社会を維持するための各種の生活情報、防災・防犯情報を全ての市民が共有し、また緊急時の連絡が確保できるシステムにしていくことが必要です。そのためには、とりわけ緊急時に地域の情報メディアが緊密に連携して情報を収集・提供する体制を確立し、その運用方法を検討することが求められます。

地域社会のネットワーク化で遅れているのは、防犯や防災に係わる緊急通信分野です。リスク管理のための地域情報ネットワークづくりは、市民や大学、通信・放送事業者、行政などが協働で推進しなければなりません。

6.2. 防犯・防災の基盤づくり

6.2.1. 防犯

調布市では、「調布市生活安全の保持に関する条例」(平成13年4月1日)を施行し、市民のくらしの安全を確保するための取り組みを進めています。また、「調布市安全・安心まちづくり宣言」(平成15年10月10日)を行うなど、民間防犯組織、ボランティア等も市民のくらしの安全のための地域の安全活動を主体的に担っていますが、こうした市民の活動の効果を一層高めるためには、警察や消防、行政との緊密な連携が必要です。

市民活動の拠点としては、各市民が住んでいる地域に加え、ふだんから多くの人でにぎわう駅前や商店街が挙げられます。特に商店街は買い物以外にもふれあいの場として、市民のくらしの場として重要な位置を占めています。こうした場において、お互いの顔がわかるコミュニケーションが生まれるようにeコミュニティを活用することも、地域の安心を生み出すことにつながります。

調布市民のくらしの安全に関する意識を向上させるためにも、eコミュニティづくりは重要な役割を果たします。市報、調布FM、調布ケーブルテレビ等のメディアを融合した基盤を整備することにより、くらしの安全に関する情報に接しやすくなり、地域の安全性が高まることが期待されます。

6.2.2. 防災

調布市では、市民を災害から守るために、避難場所や被災者一時宿泊施設、耐震貯水槽・震災用流水タンク、街頭消火器、防災備蓄倉庫などを設置し、災害発生時に被災者に対して、すばやく応急対策がとれる体制づくりを進めています。また、災害時には、行政や市民1人1人の行動には限界があることから、市民が自主的かつ効果的に防災活動を行うための防災市民組織を支援しています。

調布市にeコミュニティが構築されることで、市民と行政の防災への取り組みに関する情報が、ふだんから共有されることとなります。これにより、防災に対する市民の意識が高まることのほか、行政による市民のニーズを十分に反映した防災体制づくりが可能となることが期待されています。

そのためにも、これから進められる調布市の地域情報化では、災害にも強い基盤整備が必要となります。現在、災害発生時に情報伝達手段を確保するために、防災行政無線システムが整備されています。有線電話から独立したシステムであることから、災害情報を迅速かつ的確に収集し、市民に広報する体制を確保することができます。これにより、有線電話の途絶や輻輳等による情報不足が引き起こす混乱の防止に役立つシステムといえます。

調布市と調布FMとは防災協定により、携帯電話から災害情報をラジオ放送することができるようになっています。そのため、緊急災害時にいち早く正確な情報を伝達することができます。

災害時に防災行政無線を備える市庁舎や、避難所となる小中学校等の施設は防災拠点となります。しかしながら、災害に強く、より正確かつ詳細な情報の収集・発信・共有が可能となるネットワークを整備するためには、市内にある教育機関(高校や大学)や事業者がもつ情報基盤と融合させることが望ましいといえます。

通常時には防災行政無線システムの一部を市民が自由に利用できるように開放し、緊急時には市や防災市民組織が優先的に使用するよう運用体制が確立されれば、いざというときにきちんとシステムが稼動するかどうかを日頃からチェックできることとなります。また、システムの維持費用の低減化にもつながります。

6.3. バリア・フリーへの基盤づくり

近年、介護制度や社会保障制度の改革が進んでいますが、現在進行中の少子高齢化に十分に対応できるまでには至っているとはいえません。核家族化が浸透し、地域コミュニティでの近所づきあい希薄になりつつあるため、今後は、いざというときの頼みの綱が身の回りで十分に期待できない状況もあります。バリア・フリーを実現するための基盤が整備されなければ、調布市民が豊かに安心して生活することはできないでしょう。

このようなバリア・フリーへの基盤づくりに応えて、最近各種の福祉用端末が開発され、通信環境も整ってきています。最新の情報通信機器の適用性を検討するとともに、福祉ニーズを把握し、システムを実際に構築してモニタ等を行いながら、真に有用なバリア・フリー対策を確立することが求められます。具体的には、日常の健康管理や非常時通信の確保を目指した、福祉用端末の導入とその福祉用端末が活用されるための基盤整備が必要となります。すでにこうした端末・機器を積極的に導入しようとしている行政の取り組みも出始めています。また、端末・機器関連事業者や通信事業者によって、インターネットを利用した、「1対多」の通話も可能な常時接続TV電話の開発も進められています。

先端的な福祉用端末を導入すれば、福祉サービスは自然に向上するのでしょうか？福祉用端末によって、きめの細かいケア・サービスが可能になり、バリア・フリー化が進むことが期待されます。しかしながら、先端的であるがゆえに、「どのような場面で有効に利用されるべきか？」、「本当に使いやすいのかどうか」といった観点に基づくと、福祉用端末にも改良されるべき点があります。

まず、福祉用端末を多くの人たちが手軽に利用するためにも、安価に、数多く普及するシステムを確保する必要があります。現時点では、福祉用端末の開発や生産に多くのコストがかかります。したがって、福祉用端末の普及をうながすためには、開発・生産を手がけている大学や事業者に対して補助金を給付するなどの取り組みが求められます。こうした取り組みにより、調布市内にあるコミュニティ・リソース(市内の大学や事業者が持つ先端技術)を発掘・有効活用することが可能になります。

機能面では、なるべく使いやすい、五感に訴えるインタフェースを福祉用端末に搭載することが求められます。福祉用端末から利用者に情報の送受信を文字、音、振動などで伝えるときに、直感的にわか

りやすい仕組みが採用されれば、福祉用端末の利用シーンが広がり、普及がうながされるでしょう。あわせて、福祉用端末の利用者の不安を解消するためにも、緊急時の操作性の向上や誤作動の危険性の低減化など、継続的な改善が求められるでしょう。

福祉用端末が通信端末として利用されるのであれば、利用者同士で会話を楽しむことができるかもしれません。このような積極的な活用が可能となれば、バリア・フリーに関する情報の共有や人的な交流が広がることにもつながるでしょう。

今後福祉用端末の導入によるバリア・フリー化を進めていくためには、バリア・フリーの現状を把握したり、福祉基盤整備に係わる行政の取り組み状況を整理したり、関連事業者との連携の可能性を模索したりしながら、福祉用端末の可能性を広げ、より効果的な福祉基盤の整備を含んだ地域情報化を進めていく必要があるでしょう。

端末・機器の種類	機能
シルウォッチ	来客、ファクス着信などを腕時計の振動と文字で表示
ワイヤレスペンダント	非常時に1ボタンで状況を外部に知らせる
電気製品モニタ	使用状況をインターネットでモニタ(ポット、等)
赤外線位置検出	日頃の活動状況をモニタ
生活状況モニタ	ベッド上検知センサ、照明センサ、など
緊急通報装置	緊急情報を同報でファクス送信

図表 18 さまざまな福祉用端末と機能



図表 19 主な福祉用端末¹⁸

¹⁸ 中島氏(ワーキング・グループ 2、電気通信大学)作成。

6.4. ケータイを使ったインフラ整備

携帯通信端末(ケータイ)は、平成15年12月末時点で、契約者数が7,979万件¹⁹と、国民の人口の過半数を大きく上回るほど普及してきました。技術進歩によって、メール機能やホームページ閲覧機能、写真や動画の撮影・送受信など、単なる通話だけでなく、ネットワーク端末としてやりとりできる情報の種類が増えたことがケータイの魅力を高め、普及に大きく貢献していることは間違いありません。地域情報化を進める上でも、ケータイの活用を検討することは有意義といえます。ケータイの活用が期待される分野は、産業・観光・教育・防災・医療、福祉と幅広く、必要な情報がいつでもどこでも利用可能になることが大きな利点です。

ケータイはすでにくらしやしごとの場で活躍してきています。駅の改札と連動し、改札を出た人向けに駅周辺のお店の情報を発信し、改札に入った人向けに電車待ちの時間を利用して携帯通信端末を使いアンケートに答えてもらう、といったことが商業化されています。イベントなどでは、スポーツ大会でのスコア集計に利用されたり、展示会などでの投票に利用されたりといった例もあります。さらに、利用者よりケータイで撮影・送信した写真データを分析し、商品開発(マーケティング)に役立てている企業もあるようです。

防犯・防災につながる例としては、駅やデパートなどにあるコイン・ロッカーで、ケータイを鍵の代わりにすることも実用化されています。また、携帯通信事業者が災害時の安否確認の実証実験を行っており、十分な効果が確認されています。さらに、留守中の自宅にカメラを設置し、その状況を携帯で確認することもできるようになっています。

「必要な情報をいつでもどこでも受発信できる環境」を築くために、ケータイの活用は不可欠ですが、ケータイの活用をサポートする社会環境や他のメディアとの連携が必要です。調布市には、地域メディアとして、調布ケーブルテレビや調布FMがあります。ケータイ端末にもテレビやラジオを搭載した製品が登場しつつあります。そのため、こうした地域メディアと連携した環境を構築すればケータイを活用で

¹⁹ 総務省調べ。

きる場面が一層広がるでしょう。

非常時に利用する場合、ケータイの電源の確保も重要となります。ケータイに搭載されている電池の長寿命化の技術も発展しつつあり、今後はより長時間ケータイを利用することが可能になるはずです。充電の場としては、くらしやしごとの現場はもとより、コンビニやケータイ販売店などでも充電できるようになってきています。今後はこうした充電基地を広げ、非常時にケータイを活用できる体制を整えておく必要があるでしょう。

ケータイの活用分野は幅広く、技術進歩にも目覚しいものがあります。将来的な技術動向を見極めるとともに、くらしやしごとの場における市民のニーズを把握し、ケータイを活用できる場面を具体的に想定しながら地域情報化を進めていくことが求められます。

7. IT で実現する元気づける産業 - 進めよう「IT のまち調布」づくり -

7.1. はじめに

調布市内の各産業は日本の経済状況と同じく衰退に未だ歯止めがかからない状況にあります。こうした状況から少しでも抜け出すためには、地域情報化を通じた地場産業の活性化が必要です。また、将来の調布市の姿を考えた地域情報化を推し進めることが求められます。

7.2. 調布市内の産業の現状

7.2.1. 商業 - バーチャル・テナント運動で1つの事業所・商店に1つのホームページを -

市内の商業の現状は、客数の減少や売上不振にさらされています。調布市商工会商業部会の加入状況を見ても、最大ピーク時の平成6年(1994年)には2,414会員を擁していましたが、倒産や廃業などにより平成15年(2003年)3月末には2,061会員となり、最大ピーク時から353会員減(14.6%減)となっています²⁰。

「市民が日ごろ何を参考にして買物をしているか」についてのアンケート結果²¹によると、現時点では、チラシや口コミが圧倒的に多くなっています。今後はインターネット情報も含め、情報の入手経路が多様化することが考えられます。しかしながら、市内にある38商店会でホームページを立ち上げている商店会はわずか6商店会を数えるのみです²²。

市内の商業の活性化を図るためには従来のように口コミやチラシを活用することも重要かもしれませんが、しかしながら、口コミやチラシといった従来どおりの手法では情報の入手経路の多様化に対応できず、売り手が提供する情報と買い手が必要とする情報に隔たりが生まれてしまいます。こうした隔たりを埋めるために、ITに大きな期待が寄せられています。

ITを活用しインターネット上に調布の商業に関する情報を積極的に紹介することは、情報が流通する

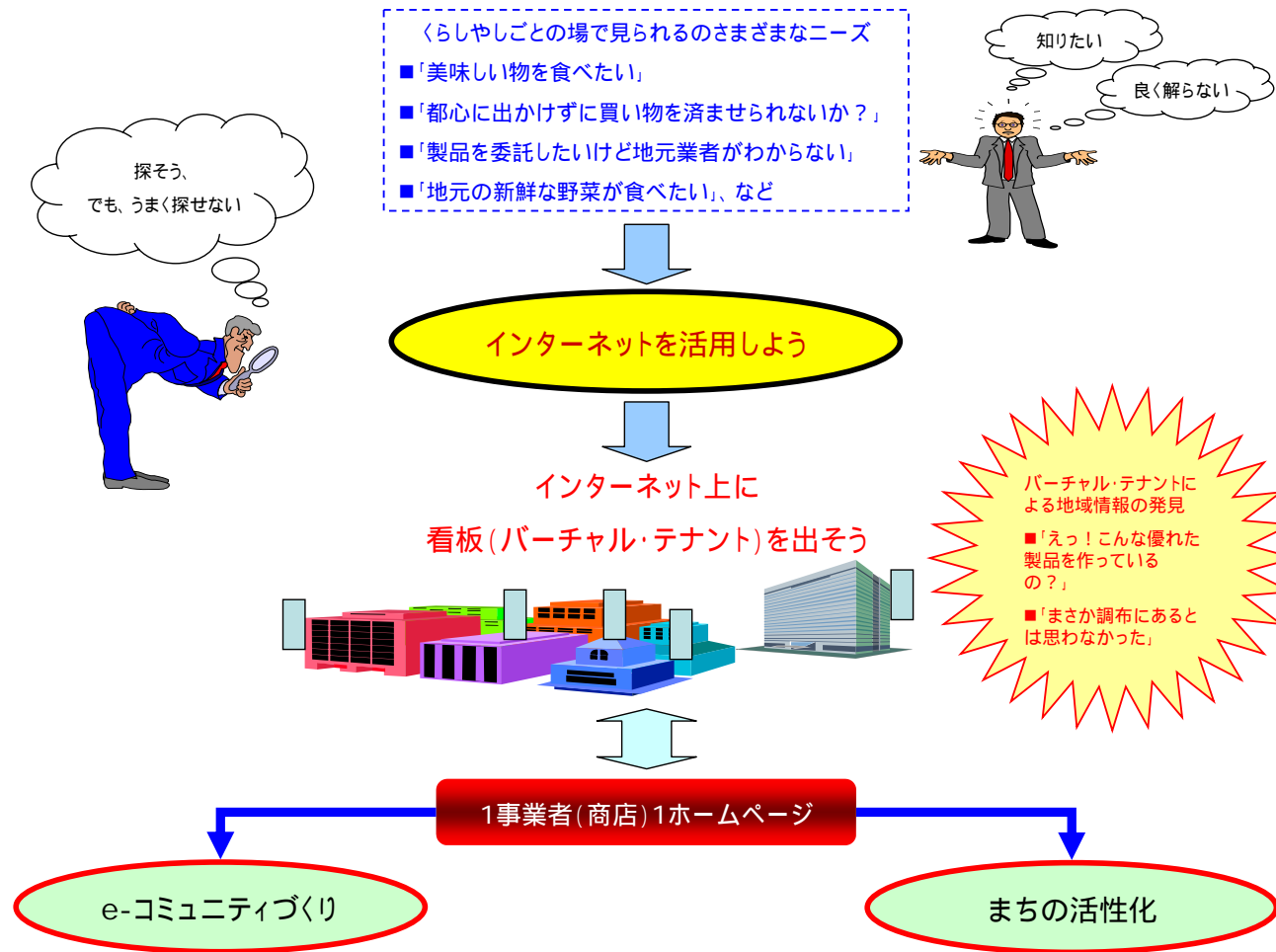
²⁰ 「調布市商店街振興プラン作成調査報告書」平成14年3月。

²¹ 「調布市商店街振興プラン作成調査報告書」平成14年3月。

²² 調布市商工会調べ、平成15年3月時点。

チャンネルを増やし、需要を掘り起こすことにもつながります。具体的には、名刺や看板代わりに1つの事業所・商店に1つのホームページを開設し、相互をリンクさせ、調布市内の商業の関連性を強化・深化させるといった方法が考えられます。

事業所・商店によってはITリテラシの不足から、ITがもたらす恩恵を受けることができない可能性も予想されます。こうした問題を解決するためには、事業所・商店、市民、大学、IT事業者、行政などが協働し、ITリテラシの習得・向上やホームページの開設を支援することが求められます。地元の事業所・商店に関する魅力あふれる情報を正確かつ詳細にインターネット上に提供し需要を喚起するためには、何よりも地域密着型の取り組みが必要となります。



図表 20 バーチャル・テナントによる地域情報の発見²³

²³ ワーキング・グループ 3 作成。

7.2.2. 工業

市内の工場数は昭和63年(1988年)のピーク時には460ヵ所あったものが、平成10年(1998年)には385ヵ所と16.3%も減少しています²⁴。これは廃業のほかに大規模工場の移転など、操業環境の悪化を反映しています。

パソコンは大多数の事業者に普及しているが、受発注伝票の発行や顧客管理、販売管理、電子メールの送受信のために主に利用されています。インターネットによる情報収集やホームページによる会社のPRなどのネットワークの活用においては事業者規模によって大きな差が生じています。

情報インフラの整備は市内にある50人以上の従業員を抱える事業者で強く望まれています²⁵。EC(電子商取引)の拡大に対応した調達システムを早期に拡大することが、ビジネス・チャンスを拡大することにもつながるからです。また、市内の各事業者がお互いに支えあうためにも、物品や設備などを事業者間で貸し借りする仕組みづくりも求められています。

7.2.3. 農業 - IT で広げる食の安全とスロー・ライフ -

調布市の農業は住宅地に囲まれた中で行われており、専業農家は少ないという特徴を持っています。調布市の農産物は、農家の庭先や市内のスーパーなどでも販売されていることから、地元志向を強めつつあります。また、市内農産物は、市民の目の届く範囲で種まきから収穫が行われています。そのため、産地偽装、残留農薬、無登録農薬の使用、BSE(牛海綿状脳症、狂牛病)、鳥インフルエンザ、などといった食の安全をゆるがす問題を生みにくく、調布市民に食の安全を提供することが可能です。

しかしながら、農産物の収穫時期は農産物の種類により異なるため、「どこの農家で今何を売っているのか」が近くに農家がない市民にはわからないといった問題もあります。地場産の農作物を調布市民に広く知ってもらうためにも、農業分野における情報化は喫緊の課題といえます。

従来はバラバラだった農作物の販売情報や、生産者の情報を情報通信技術を駆使して統合させていくことにより、地元との密着感や安心感が高まることが期待されます。たとえば、市内の田畑や農家の

²⁴ 「調布市工業ビジョン策定事業報告書」平成 14 年 3 月。

²⁵ 「調布市工業ビジョン策定事業報告書」平成 14 年 3 月。

直売所にウェブカメラを設置し、農作物の生産状況や生産方法、現在販売されている農作物の種類などを知ってもらうを通じ、農業に対する理解を深め、地元農業が生み出す安心感を実感してもらうといったことが可能になります。また、地元農家と市民を含む消費者との間で築かれた安心・安全感は、地場産業の活性化にもつながります。

また、地元農業は、市民が自然に親しむ機会を創出します。自然に親しむ機会が広がれば、食の安全・安心とともに調布にスロー・ライフ²⁶が根付くことになります。

こうした取り組みを効果的に実現していくためには、市民や大学、事業者、行政などが協働して、農家を支援するための仕組みづくりをすることが必要です。

7.2.4. 観光 - 調布の文化の発信と地域再発見 -

調布市観光協会は平成14年5月にホームページを開設し、市内観光情報等を発信しています。調布市内には名所旧跡が数多く存在しているため、魅力ある情報が提供されています。

市内観光情報は主に市外に発信されています。調布の観光リソースを有効活用し、地域コミュニティを活性化させるためには、従来の市外向けの観光情報に加え、市内向けに地域の再発見をうながす情報が提供されることも必要です。

調布には、東西に甲州街道(国道20号線)と京王線という大動脈が、南北には三鷹通りや武蔵境通りなどの道路があります。現在、三鷹通りの拡幅工事、京王線の連続立体交差化事業といった運輸インフラの利便性を高めるための取り組みが進められています。しかしながら、この利便性の向上と引き換えに、素通り性が高まることも考えられます。また、京王線の地下化により、その区間では京王線からの車窓風景が望めなくなります。

このように、運輸インフラの利便性が高まることにより調布の魅力を伝えにくい状況が生み出されることにもつながる可能性があります。そのため、情報通信技術を活用しながら、調布市内の観光リソースを有効活用し、地域を活性化することが求められます。具体的には、現時点では分散している名所旧跡

²⁶ 自然に親しみながら生活するライフ・スタイルを指します。

の情報を歴史や文化を感じやすい形に整理することです。あわせて、調布市民のくらしと密着した情報を創出することで、調布の観光産業が発展することが期待されます。

観光リソース	主な例
スポーツ施設	味の素スタジアム、調布基地跡地運動広場、調布市総合体育館、ほか
名所・旧跡	深大寺、布多天神、虎柏神社、青渭神社、近藤勇生家跡、武者小路実篤記念館、映画関連施設、ほか
公園・散歩路	神代植物公園、野川公園、かに山周辺地域、野川サイクリングコース、ほか
河川	多摩川、野川、ほか
交通	京王線、中央自動車道、国道20号線、調布飛行場、ほか
教育施設	電気通信大学、東京外国語大学、桐朋学園大学、白百合女子大学、ほか

図表 21 調布市内の主な観光リソース²⁷

²⁷ ワーキング・グループ3作成。



図表 22 調布市の観光マップ²⁸

²⁸ 調布市観光協会作成資料に基づく。

7.3. より総合的な地域産業振興策の必要性

7.3.1. 調布ポータル・サイト - インターネットにつくろう、調布の産業の窓口 -

調布市内の産業を元気付けるためには、市内の産業に関する情報をより多く、より深く、より詳細にまとめ、わかりやすい形でインターネット上に提供する必要があります。現在調布市内で利用されているメディアには、新聞や雑誌のほかに、タウン誌、調布ケーブルテレビ、調布FM、そしてインターネットなどが考えられます。こうしたメディアで提供されている情報を統合し、本当に必要な情報を提供していくためにも調布のポータル・サイトを構築することが求められます。調布市内の事業所・商店や市民、大学、事業者、行政などが協働で知恵や技術を持ち寄りながらポータル・サイトを構築すれば、地域の活性化が一層うながされます。

7.3.2. 新産業の誘致・創設 - 公共 IDC で調布を IT の街に

ITを活用して調布市内の産業を活性化するためには、IT関連事業者を誘致したり、新たに設立したりする方法もあります。現在、調布市内では、調布で生まれたIT事業者も活躍の場を広げており、インターネット接続サービスやホームページ作成サービスなど、調布市民がインターネットを利用するために必要なさまざまなサービスを提供しています。こうした事業者が既存の調布の産業と結びついてお互いに発展していくためにも、牽引役となる事業者や核となる設備が求められます。

調布市内の産業をITで元気づけるためには、調布の産業特性を十分に理解したIT事業者とともに取り組みを進めることが有効です。また、このような取り組みを推進することで地元で強いIT産業が生まれることにもなります。ただし、地元で強いIT産業を花開かせるためには、その産業の基盤を形成する設備が必要となります。

現在、情報通信関連基盤の多くは大都市圏に集中しています。大都市圏ではすでに十分に産業が集積しているため、商取引も活発であり、ビジネス・チャンスにもあふれています。地域が発展するためには産業の集積が必要です。

調布市内の産業を再活性化するためには、既存の産業を刺激するほかに、新たな産業も加えた集積

が必要です。地元で強いIT産業が誕生すれば、既存の産業のIT化がより効果的に進むと同時に、新しい産業であるIT産業自体の足場も固まり、調布市内の産業全体の持続的な発展の可能性が高まります。そのためにも、情報通信関連基盤を調布市内にも建設し、市内の既存の産業や市外の先端的な事業者にも有効活用をしてもらいながら、地元で強いIT産業の誕生を促進することが求められます。

情報通信関連基盤としてはインターネット・データ・センター (IDC: Internet Data Center) が挙げられます。IDCは、従来社内に置かれていた事業者の情報システムを外部に切り出すことを可能とするサービスです。このサービスを利用することで、大規模かつ複雑な情報システムを保有する事業者にとっては、情報の処理や保管に必要なサーバなどの機器を外部の施設で管理し、情報システムの運用コストが引き下げられ、情報システムの耐障害性が高まります。また、IDCではサーバを外部の施設で管理していることから、IDCが遠方にあると利便性が低下してしまうことになります。

サービスの種類	主な内容
サーバ設置場所の提供	冷暖房を完備した耐震構造の建物に、利用者が所有するサーバを設置するサービス
サーバの貸し出し	最新のサーバを利用者に貸し出すサービス
サイトの運営代行	サイト(ホームページやデータベース)の構築・運営・管理を代行するサービス
情報システムの連携	他の利用者が保有する情報システムと連携し、高付加価値情報を生み出すサービス
実験サービスの提供	IPv6やネット家電、などの次世代インターネットに係わる実験サービス

図表 23 IDC が提供する主なサービス

IDCは24時間・365日稼動するように、運用・保守体制が整えられています。そのため事業者や大学、行政などにとって、地域ネットワークを常に安全かつ安定した状態で稼動させることを可能とします。とりわけ、行政にとっては大きなメリットをもたらすことが予想されます。

現在、進められつつある行政サービスの24時間・365日化を実現するためには、情報通信技術の活用が不可欠です。しかしながら、行政が独自に情報通信環境を整備していくことは、技術者の確保といった人材面や情報通信投資に係わる費用面の制約からきわめて困難であるといえます。IDCはこうした制約を解消し、最先端の情報通信環境を短期に入れることを可能とします。

IDCを調布市内に設置することで期待される効果としては、調布市内の利用者にとって、従来のよう

にサーバの保守などのために都心まで移動する必要がなくなり、利便性が高まることが挙げられます。

この利便性の向上は、市内の事業者の流失防止に役立つばかりか、先端的な事業者が市内への移転をうながし、調布市内の産業集積に寄与するでしょう。こうした産業の集積が進むことで、調布市内の産業全体が元気づけられることにもなるでしょう。

8. 暮らしを支えるネットワークづくり - 市民の手による地域情報発信 -

8.1. 調布の特性を考えた情報化 - いつでも・どこでも・誰でもできる情報発信 -

調布市は、他の大都市近郊地域と同様にベッド・タウンとしての特性があります。

調布市民の多くが市外への通勤・通学者です。市外へ通勤・通学するために、居住地域のコミュニティとの関係が希薄であり、家族を通して間接的に関わるだけという人たちも少なくありません。このような市民のために、地域コミュニティでの居場所をつくり出し、暮らしの充実を図るためには、どのようにITを活用したらよいのでしょうか？

まず望まれることは、地域コミュニティへの関心を持ってもらうことです。そのためには、関心を引きそうな情報を提供・共有することです。調布市報や調布ケーブルテレビ、調布FMなど市内の主要メディアにもっと市民感覚と市民の力を注入することも望まれます。市外に通勤・通学する市民が昼間調布にいないことを考慮した情報の創出や、こうした市民が調布に戻る時間帯や場所を考えた情報共有の仕方考え出す必要があります。

8.2. 地域情報化を考えるに当たっての視点

近年の核家族化、濃密な人間関係を嫌うあまり地域コミュニティと没交渉で気楽に気ままに生活をエンジョイする風潮(近隣の助けを要しなくても成り立つライフ・スタイルの蔓延)、事業者モラルと社会のモラルの乖離、などから、「地域コミュニティ」自体のあり方が問われています。「地域コミュニティ」の原点は、「歩いて行ける」、「顔が見える」人間関係から始まり、こうした関係はやがて愛着となって、ふれあい、ぬくもり、想いの共有を生み出します。

「地域情報化」は、いいかえれば「地域コミュニティの活性化」であり、新しい地域コミュニティのあり方を模索することです。こうした「地域情報化」の課題としては以下が指摘されます。

- 身近な情報を得ることができない(情報が埋もれている)
- 情報を伝えるにくい(市民に有効な発信手段がない)
- 地域コミュニティでの希薄な人間関係から情報のマッチングがむずかしい
- 調布の地域特性に合った情報化がなされていない

8.2.1. 身近な情報を得やすくする

今、世界にはたくさんの情報が溢れています。わたしたちは新聞や雑誌、テレビ、ラジオインターネット、会話などからさまざまな情報を得ています。その一方で、「自転車でどこかへ行く途中パンクしたとき、近くの自転車屋さんがどこにあるか」、「品川道で突然渋滞になったが何が原因なのか」、といった日常的で身近な情報は、簡単に入手できるようなにはなっていません。このような身近な情報の生成・蓄積・共有の面で十分な仕組みづくりが進められていないからです。そのため、市民や大学、事業者、行政などが協働で情報を集めたり、望ましい情報メディアを育てたりしながら、身近な情報を得やすくする必要があります。まず、身近な情報を収集・整理し、そして情報を分かりやすく提供するための仕組みづくりが必要です。

容易に必要な情報にアクセスできるようにするには、情報の整理編集方法に配慮することは当然ですが、可能な限り利用者の希望に合った方法で情報を提供することが必要です。その手段も、IT機器に頼るだけではなく、人が介在して伝える仕組みもぜひ考える必要があります。パソコンなどをを用いた情報検索は便利ですが、情報機器の操作方法や取得した情報から有効な情報を選択するための技術・知識をあらかじめ習得しておく必要があります。必ずしも容易であるとはいえない場合もあります。熟練したアドバイザーを得たり、既存の情報提供サービスとの連携により情報をやりとりしたりといった仕組みづくりが必要です。情報を求める市民が情報を取得するために求められる技術や知識を習得する機会を提供し、情報の活用をうながすことも求められるでしょう。こうした仕組みづくりにおいては、情報を必要とする人と情報の“マッチング”のしくみを実現することが重要なポイントになります。

8.2.2. 地域に情報を伝えやすくする

調布市の地域メディアである「調布市報」には毎号たくさんの情報が市民や市民グループから寄せられています。大勢の地域の人たちに情報を伝えたいという市民のニーズにはどう応えればよいのでしょうか？

地域コミュニティに広く情報を伝えるためには、大多数の人から認知され、支持されているメディアが必要です。また、地域メディアとして頼りにされるパワフルな存在となるための必要条件としては、日頃から網羅的にくらしの場で本当に必要とされる情報を提供して利用者の信頼を得ていることが挙げられます。情報が得やすく、誰でも情報が発信できる開かれた地域メディアであることが求められます。

8.2.3. 地域の人を結び、活動を結ぶ情報化を進める

今後調布市では、どのような地域情報化が求められるのでしょうか？「定年退職し家にいてもやることがない。ほかの人たちはどうしているのだろう」、「子育ても一段落。これからは少し趣味でも楽しみたい」、「近所付き合いがなく、いざという時に不安だ」といったように、市民(生活者)はくらしの場でさまざまな疑問や課題に直面しています。このような疑問や課題を解決するために、地域情報化に対して大きな期待が寄せられています。

市民が抱える疑問や課題の中には、地域コミュニティで解決可能なものが少なくありません。人と人とを結ぶ仕組みを地域情報化の中で実現する必要があります。

8.3. 調布市のくらしを支援する情報ネットワークの必要性

調布は都心にもほど近く、京王線や国道20号線、中央高速自動車道路などの運輸インフラが整備されているため、くらしには便利な場所といえます。しかしながら、都市型住宅地特有の希薄な人間関係から情報不足も生じつつあります。この情報不足は、身近な地域情報が入手しにくいという特徴を有しています。

行政情報は市報や市の公式ホームページから、お店や事業者の情報は情報誌やホームページから

入手できます。しかしながら調布市民自身が提供している、くらしの質を向上させるための身近な情報を得られる機会や場所は、くらしの場からは見えづらく、情報が埋もれているといえるかもしれません。インターネット上でも、調布市民によって地域に密着した情報が提供されつつありますが、こうした情報を手軽に探し活用する環境がくらしの場で十分に整備されていないのが現状です。

特にインターネット上で流通している情報を活用する場合には、IT機器(パソコン、ケータイ、など)の操作方法のほか、インターネット上での情報の検索方法などの技術や知識(ITリテラシ)が求められます。そのため、ITリテラシが不足している市民の場合、せっかく流通している情報を活用しきれないことになります。

身近な情報やコミュニティ・リソースの有効活用は、くらしの質を向上させます。そのためにも、市民が持っている情報を収集・整理し、データベース化していくことで、市民と地域コミュニティを結び付けていくことが必要です。こうした情報を市民の手で企画・編集し、発信すれば、市民ニーズに近い情報が流通することにもなり、地域コミュニティが元気付けられることにもなるでしょう。

8.4. デジタル・デバイドの克服と情報リテラシの育成 - 市民による取り組みの必要性 -

市民が同じ目線で教え合ったり、気軽にITに触れる雰囲気をつくり出したり、体験者が情報活用の手法を紹介したりといった取り組みが進められれば、より身近にITが感じられ、初心者も情報を活用できるようになります。同じ目線を持つ市民によって情報リテラシを向上させデジタル・デバイドの解消に寄与する機会(市民による市民のためのIT講座、など)が創出されれば、ITのくらしの場への普及が促進されることになるでしょう。そのためにも、市民や大学、事業者、行政の協働体制づくりが必要となります。

8.5. 地域で情報発信している個と個をつなぐ場(ネットワーク)の提供

人と人とが結ばれ、市民、大学、事業者、行政などが協働を深めていくことが、いずれ調布の地域力となります。市民が地域メディアを活用して情報発信し、それらをネットワークでつなぐことで、隠れてい

た地域力が再発見されます。これは、地域ポテンシャル(潜在力)の発掘と活用につながります。しかし、市民個人が情報発信するだけではその情報は多くの情報の中に埋もれてしまい、他の市民が発見・活用できる機会が失われてしまいます。したがって、情報をつなぎ活用できるネットワークの構築が必要となります。

8.6. 地域に密着したメディアの積極的活用

地域メディアを活用し、様々なメディアの特性を活かすことで、情報の流通量は格段に上がります。活用できるメディアとしては、調布FM・調布ケーブルテレビ・ミニコミ誌・市報等に加え、WEBサイト、携帯電話への情報提供、地上デジタル放送、などが考えられます。情報を様々な形でマルチメディアに発信することで、情報を利活用する市民の持つ様々な条件を克服することが可能になり、デジタル・デバイド(情報格差)の克服につながります。

8.7. 地域情報データベースの構築

市に関わる人や活動の様々な情報を蓄積し、データベース化することで、更に活用範囲が広がります。地域情報のデータベース化のみでなく、地域メディアから発信される情報をアーカイブとして保存し、市民間で交わされる情報もメディアを問わずにデータベース化し、様々な手法で活用できる仕組みづくりをすることで、情報弱者と言われる人にも利用機会を広げます。

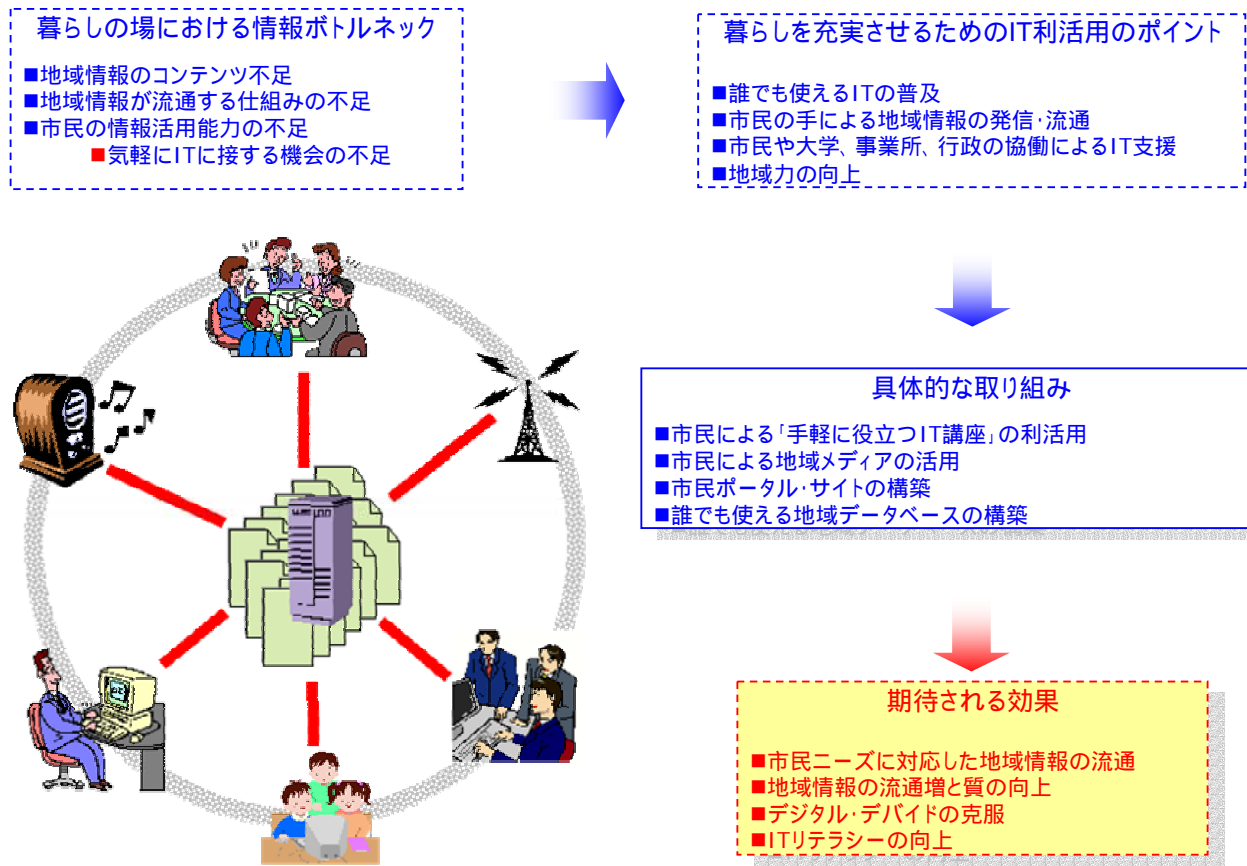
8.8. IT を使った活動支援体制の整備

市民参加で情報を行き交わせようといっても、ITに親しむ機会がなければ、気持ちはあってもハードルは高くなってしまいます。地域情報化への市民の関心を高め、積極的な貢献を求めるためにも、ITに親しむ機会を創出するだけでなく、市民のニーズをまとめ、協力できる人を募ることができる、調布独自の組織づくりが必要です。専門技術を持つ人によるIT利用のアドバイス、わかりやすい技術情報の集約、

情報活用に関するノウハウの伝授、などにより、市民のIT利用の幅は更に広がります。

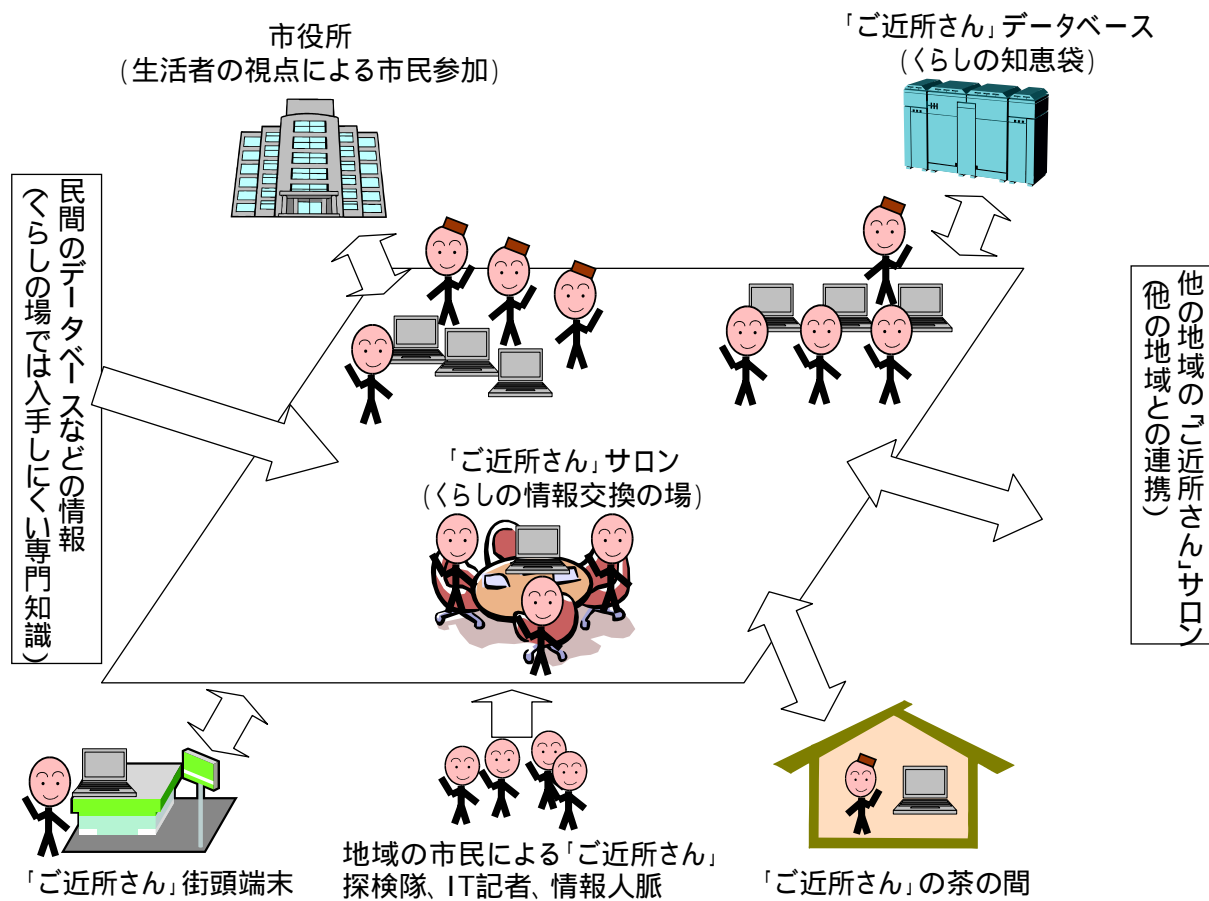
8.9.IT スキルの向上と地域活性化の相乗効果

情報の生成や発信、蓄積といった、一連の情報活動を少しずつ積み重ね、繰り返すことで、市民情報を扱うスキルは必然的に向上していきます。また、こうしたスキル向上にともなって、市民の手による身近な情報の発信に興味を持つ市民も確実に増えるでしょう。やがてこうした市民も含めたさまざまな地域情報化活動がより活発に行われるようになり、それらが交流し、ふれあうことが期待されます。このような地域情報化の中から、これまでとは異なる、新たな形のコミュニティが創造されていくでしょう。



図表 24 市民の手による地域情報化と問題解決の流れ²⁹

²⁹ ワーキング・グループ 1 - サブワーキング・グループ 1 作成。



図表 25 「ご近所さん」ねっと(市民の手による地域情報発信の例)³⁰

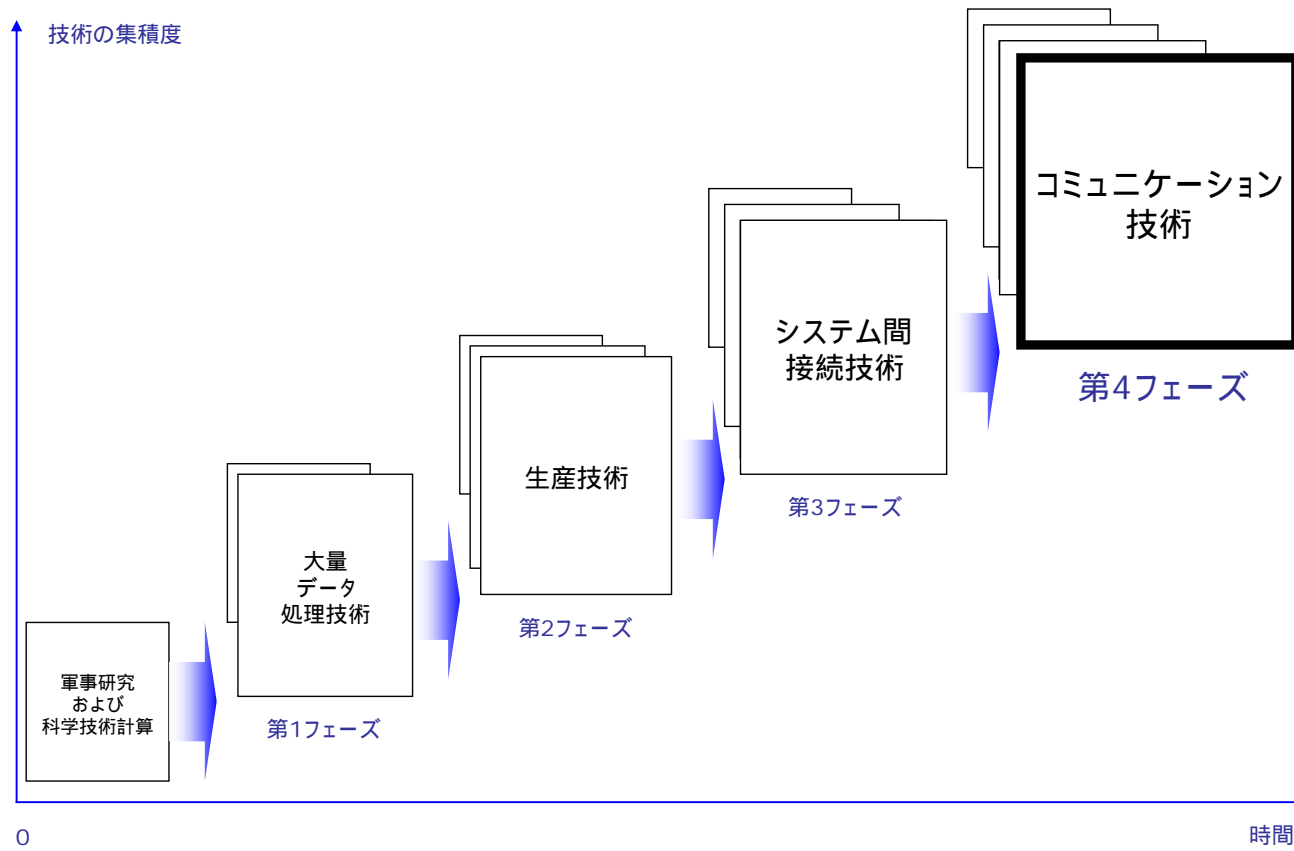
³⁰ ワーキング・グループ 4 作成。

9. 知のコモンズとしての図書館

9.1. 情報化の進展と知識化

情報化の駆動力は、それが推進される分野でそれぞれに特有なあり方をしてきましたが、「問題解決のツール」という意味では共通していました。現在、下図に示したとおり、情報化の段階は第4フェーズにさしかかり、「コミュニケーション・テクノロジー」としてのIT(情報技術)の利活用が重要なポイントとなっています。

情報化が進展するプロセスは、また、同時に知識化のプロセスでもあります。知識社会の到来と情報化の進展は重なっているのです。情報化の進展に伴って必要とされる知識も変化し、その活用のされ方も変化してきました。それは解決すべき問題の性格に応じているともいえます。



図表 26 情報化の発展段階³¹

³¹ 福田氏(ワーキング・グループ 5、電気通信大学)作成。

9.1.1. 情報化の現段階

現在、情報化の段階は第4フェーズにさしかかっています。この段階では「コミュニケーション・テクノロジー」としてのIT(情報技術)の利活用が重要なポイントとなります。そして、情報化が進展する最も重要で戦略的意味が大きいフィールドが、生活日常のシーンであり、その舞台となるコミュニティです。このような分野における情報化が「地域情報化³²」です。地域情報化は、電子政府や電子自治体の構築とは異なり、「コミュニティの情報化」であり、「eコミュニティの構築」です。

地域情報化を考える際に注意すべきは、問題解決が生活日常やコミュニティの場において追求される場合の特性です。その特性とは、第一に、解決されるべき問題は、わたしたちが日々の生活で直面するコミュニティや生活日常に関わる問題であり、個人的な事情が絡みながらも個人ではとうてい対処しきれない問題群です。第二に、コミュニティの場で解決されるからには、わたしたちの自律的で主体的な取り組みが必須のものとなるということです。自己判断・自己責任社会の到来ともいえます。第三に、ここで必要となる知識やテクノロジーがどのようにして調達されることになるか、という点です。

9.1.2. 知の共同地(協働知)として

この最後の点に関連して、近未来のコミュニティには、「知のコモンズ(共同地/協働知)」としての図書館が必須になるものと考えられます。そして、そのような図書館は、従来の図書館のイメージとはかなり異なる図書館である可能性があります。

³² わたしたちの取り組む「地域情報化」のキーポイントを、キーワードで表現すると以下のようになります。

- コミュニティ
- 市民/市民の参加
- 問題解決
- テクノロジーへの柔軟な対応
- 新たな資源の調達と開発(貢献やボランティア)
- 主体(性)の発見と形成

この最後の主体性の発見と形成は特に困難な点です。その市民が主体になれる条件としては、以下のものが考えられます。

- 公論の必要(電子掲示板やメーリング・リストが有効)
- 専門知識・経験をもてるか
- 行瀬との協働
- サービスの購入
- NPO やリタイア人材の活用
- 学びの場があるか
- 時間を作れるか(非同期メディアの活用)
- 場所を確保できるか(バーチャル・スペースとリアル・スペース)

これからの図書館は、「知の蓄積と連携」を可能にする新たな空間となるでしょう。それは、住人・生活者の問題解決に役立ち、人々の生き甲斐や楽しみさえ受け止めてくれるところであり、新たなコミュニティを(都市部においては都市生活を支えるアーバン・コミュニティを)形成することになるでしょう。それだけではありません。新たなコミュニティの形成には、ベンチャー・ビジネスやコミュニティ・ビジネスの担う役割がきわめて大きいといえます。それは日本経済の基礎体力を形成し、新たな社会・経済システムの創生をもたらすものでもあります。

9.2. 図書館を巡る新たな潮流

9.2.1. IT時代の公共図書館

近年、公立図書館の体制に新たなる変革の波が押し寄せてきています。つまり、サービスの合理化・効率化、そのために民間的手法を取り入れた経営方法が採用されるべきであるという思想の導入が、公立図書館の運営にも求められているということです。そして、これを実現するために、省力化の有力なツールとしてIT(情報技術)が大きな役割を担うと期待されています。IT化された公共図書館、電子図書館サービスの本格展開です。

9.2.2. 電子図書館、そしてハイブリッド図書館へ

電子図書館とは、一般に電子機器を利用した図書館サービス全般のことを指します。そこには蔵書管理や貸出管理のためのシステムはもとより、CD-ROMやDVDのような電子メディアの導入、利用者に対するOPACやインターネット端末の開放、図書館ホームページの作成、資料のデジタル化と発信、などが含まれます。このような電子的な図書館システムは1980年代から導入されてきましたが、1990年代のインターネットの普及によって一気に実現される目処がついたといえます。

公共図書館では印刷媒体とともに電子媒体も扱うため「ハイブリッド図書館」と呼ばれることがあります。この性質の異なる2種類の情報媒体によって体系的・網羅的に蓄積された情報を効率的かつ積極的に提供する「ハイブリッド図書館」こそが、これからの時代の公共図書館の理想像です。

9.3. 図書館の新たな機能 - リアル・commonsとしての図書館空間 -

9.3.1. 地域情報拠点としての図書館(e-ライブラリー)

「eコミュニティの創造」をめざす調布市の地域情報化において、図書館には知のcommonsとして新たな役割・機能を担うことが求められています。一般に、従来型の図書館は「図書の館(やかた)」でしかなく、本を無料で閲覧したり、貸し出してもらえたりする場所でした。

しかしながら、「eコミュニティの構築」を目指す調布市の図書館は「情報の館」であり、「人類の共同知の館」です。すでに、調布市は、全国的でも有数の図書館先進地域とされていますが、地域情報化の拠点として調布市の図書館がさらに発展することが期待されています。

9.3.1.1. 知的資産の集積と提供

図書館は、本や雑誌、電子資料などを通じて、人類の膨大な知識や知恵とめぐりあえる、情報アクセスの場です。また、こうした知識や知恵には海外からもたらされたものや、現代に限らず遠く古^{いにしえ}のものまで含まれ、人間の英知が及ぶ限り広くまた永く生き続けるものです。

今後、情報化の進展の中で、市民の情報ニーズの多様化や高度化、市民のライフ・スタイルにおける図書館の位置づけの変化が見込まれます。そのため、より広汎な情報、すなわち知的資産の集積への対応が図書館に望まれるでしょう。また、図書館ネットワークを通じて、他館との図書の相互貸借をはじめ、各種データベース・サービスの利用など、ネットワーク・サービスの利用拠点としての重要性が増すことも予想されます。今後、情報拠点としての図書館に求められるサービスは、以下のとおりです。

サービスの種類	主な内容
地域情報の収集・分類・整理・提供	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の文化・芸術・学術資料(行政資料、郷土資料、生活情報、など)の整備 ■ 調布市民の日々のくらしやしごとにおける問題の解決につながる多様な情報の収集・提供 ■ 地域情報データベースや地域情報ポータル・サービスなどの整備 ■ 地域情報のニーズとシーズのマッチングの場の提供
各種デジタル資料(パッケージ資料、ネットワーク・サービス・コンテンツ、など)の整備	<ul style="list-style-type: none"> ■ CD-ROMやDVDなどで提供される電子資料の整備 ■ インターネットで提供される各種商用データベース等のネットワーク・サービス・コンテンツの利用環境の導入
図書館ネットワークによる資料サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ■ 市内および近隣の各種図書館、国会図書館、専門図書館等との相互利用等の協力関係の確立 ■ 市内および近隣の各種図書館、国会図書館、専門図書館等との図書相互貸借による利用可能図書の拡充

図表 27 今後求められる主な図書館サービス³³

9.3.1.2. デジタル・アーカイブス

情報化社会の図書館の大きな特色は、資料の保存性や情報共有が、デジタル化により、紙資料や印刷媒体に比べ格段に高度化することです。従来、保存と整理が困難であった郷土資料等の貴重資料等をデジタル化することにより、永久的な保存と電子資料としてより広範な提供が可能となります。すでに、国宝や重要資料の電子化(デジタル・アーカイブス)に向けた国レベルでの事業が、国立国会図書館をはじめ各地で進められています。

今後、地域の貴重資料の収集とデジタル化を通じて、地域の文化や歴史、特性の理解が広まり、重要な地域資産が未来に継承される基盤を生み出すことは、図書館の重要な役割です。

³³ 山村氏(ワーキング・グループ5)作成。

9.3.1.3. ネットワーク・サービス

図書館に対しては、地域の知のコモンズとしての場の提供に大きな期待が寄せられています。リアルな空間としての図書館において提供されるサービスにとどまらず、バーチャル図書館サービスも地域情報化が進むにつれて一層求められるようになります。また、気軽に図書館にこられない市民のために、自宅や職場から来館者と同等のレファレンス・サービスや資料貸出サービス等が利用できることは、バリアフリー化の観点からも重要です。

9.3.1.4. レファレンス・サービス

図書館サービスで最も重要なものの1つとして、利用者の多様な資料相談への対応があります。ここでは、身近な生活情報から地域資料、学術・専門資料、ビジネス資料など幅広い領域での適切な対応が望まれます。また、より専門性の高いレファレンス・サービスの充実のためには、図書館ネットワークを活用した他施設との連携も重要となります。

ネットワーク時代のレファレンス・サービスとしては、インターネットを利用したメール・レファレンス(電子メールによる問合せと回答)やレファレンス・データベース(過去の類似の資料相談事例照会サービス)などが考えられます。

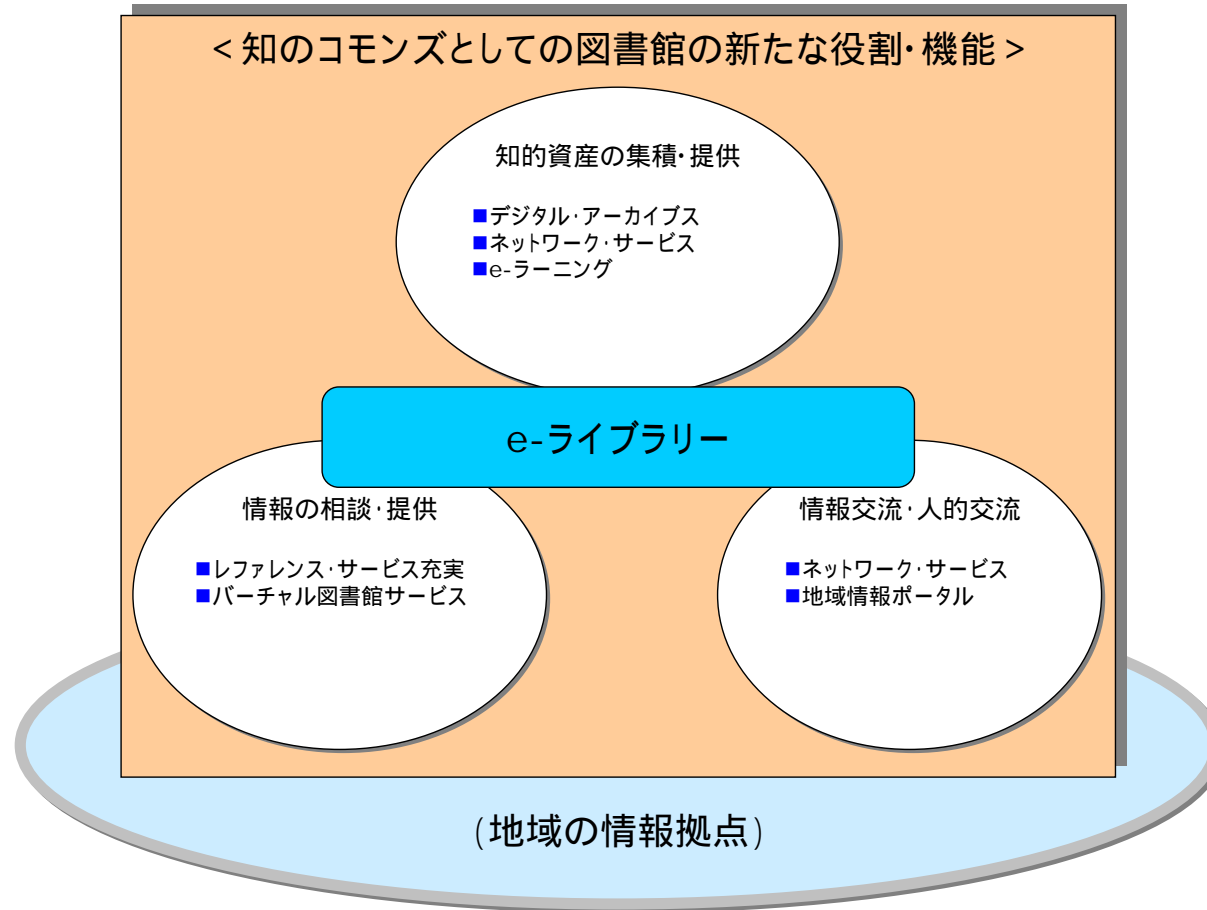
9.3.1.5. 情報交流

図書館は、利用者がそれぞれの課題解決のために情報や知識を求めて集まる場所です。市民が集まる拠点機能を活用すると、文化、芸術、科学、生活などに関連したさまざまな情報交換や人的交流が可能となります。具体的には、シンポジウム、講座、ワークショップはもとより各種のクラブ活動などが挙げられます。こうした図書館でのリアルな交流と、インターネットによるバーチャルな(仮想空間上の)交流は市民の情報アクティビティを向上させ、地域コミュニティの発展に資することにつながります。

9.3.1.6. e-ラーニング

近年、資格取得や豊かな老後を目指した市民の学習意欲が高まっています。インターネットを利用したe-ラーニングは、時間や場所を選ばず、自分のペースで学習ができることなどから、今後急速に普及することが期待されています。

図書館を市民の生涯学習教育の場ととらえると多様な活用場面が描けます。図書館の持つネットワークやデータベース等の情報基盤を活用することで、幼児から一般社会人、高齢者までの幅広い世代が、図書館内はもとより自宅や職場をなどのさまざまな場所で学習の機会を得ることを可能にします。また、図書館が所蔵する地域資料などのコンテンツや、市民や大学、事業者、行政が作成した学習教材などを活用しながら、地域の特性に合った教育も可能となります。



図表 28 これからの図書館³⁴

³⁴ 山村氏(ワーキング・グループ 5)作成。

9.4. 大学図書館との連携

調布市は市内及び近隣に多くの大学を擁しています。電気通信大学や東京外国語大学をはじめ、桐朋学園大学、白百合女子大学、国際基督教大学、等があります。大学の付属図書館は学術情報の拠点であると同時に学習の場として整備された環境を有しています。各大学はそれぞれ独自の教育・学問分野をカバーしており、日本でも有数な専門分野の図書が完備されています。

これまでも調布市民が大学の図書館を利用する道は開かれていましたが、実際の利用者は限られていました。その理由としては、大学図書館がそれほど積極的に学外にPRを行っていなかったことや、利用可能な図書の専門性が高いため市民にとって魅力ある図書ではなかったことなどが挙げられます。

しかし、近年の情報化の流れの中で、どの大学図書館も図書のデータベース検索が著しく進展しています。同時に、専門学術誌(専門分野の論文、解説、資料、等)は電子化され、ネットワークを介して手元の端末で購読・印刷のできるオンライン・ジャーナルが急速に発展しています。オンライン・ジャーナルについては、この3～4年に欧米の学会や出版社が主導する形で普及してきていますが、国内の学会・出版社も同等のサービスを展開し始めています。このような最新の図書サービスのみならず、大学図書館にはそれぞれの大学の専門分野での貴重な資料、古典、収集物があり、これらを利用することも可能です。

大学図書館は専門性の高い蔵書をそろえていることから、専門分野に強い関心を持つ市民のみならず、ビジネス目的での利用者に対しても高い付加価値をもたらすでしょう。公共図書館におけるビジネス支援の観点からも、専門性のある大学図書館と公共図書館との連携を有効に機能させることが必要でしょう。

9.5. 地域情報センターとしての公立図書館

公共図書館には、知価社会実現のために市民の情報活用による知識化を支援する地域の情報センターの役割を担うことが期待されます。地域コミュニティを総体的に発展させるためには、地域経済を再

活性化する機能を備える必要があります。地域経済を再活性化する手段としては、新たな事業者(ベンチャー事業者)の創業を喚起することや、地域経済の担い手である中小事業者が経営革新して(第2創業に成功して)自立化することです。地域における新たな事業者(ベンチャー事業者)の創業の増加と自立した中小事業者の積極的な活動は地域経済の発展を牽引し、日本経済の再生の手がかりを提供してくれるでしょう。

公共図書館が新たにインフラとして情報拠点になるために必要なのは、ハード(建物やパソコン、など)でも、ソフト(ウェブやデータベース、など)でもありません。何より、図書館の利用者である市民と図書館に係わる人たち双方の熱意です。今後、図書館に「らしやしごと」の場で本当に必要とされている情報が蓄積され、こうした情報を手軽に利用できるようになれば、図書館は地域コミュニティの発展において中心的な役割を果たすことになるでしょう。

10. IT を活用したコミュニティ・レベルでの人づくり

10.1. 生涯学習と地域学習 - IT 学習と「調布学」 -

調布市は、社会変化を背景としながら、市民の学習意欲に応え、学習社会実現に向け、生涯学習の推進に関する施策を総合的・効果的に推進するために、生涯学習部署を確立し、市民参加施策との連携を考慮し、市長部局に位置づけています。

例えば、文化会館「たづくり」、複数の地域福祉センター、市営の体育館、市民センター、公民館、ふれあいの家など、市民が生涯学習を行っていく上で必要な活動拠点を数多く用意しています。また、調布市の生涯学習活動の内容は多岐にわたり、その数多くのサークルの情報を市のホームページや「平成15年度 サークルガイドブック」に収め、市民に提供しています。

ただし、個々の生涯学習の団体はそれぞれ独自に行っているものが多く、横のつながりに乏しいという特徴を有しています。また、市に情報を提供していないが活動を行っている団体や、不定期に開催する団体、「野川の桜」ボランティアのようにイベント的に行う活動などもあり、市内の生涯学習活動すべてを市が把握することは難しくなっています。

そこで、市民同士が互いに交流を図るとともに、市民の視点から必要な情報を発信していく「生涯学習の拠点」が必要です。

また、市民にニーズがあるにもかかわらず、生涯学習としてはいまだ対応しきれていない分野があります。それが、「IT」と「調布学」です。ITはもはや生活の一部になりつつあり、また、使う人と使わない人の格差が大きい分野でもあります。このため、個人が独学で始めようとしてもなかなかマスターできず、また正確な「知識」と「教える技術」をもつ教師を個々で確保することも難しいといえます。したがって、「生涯学習の拠点」となる組織が仲立ちとなってIT講習会などを主催すれば、効果が大きいと思われます。

生涯学習の対象として、調布について学ぶ「調布学」もあるでしょう。「調布学」とは調布に古くから伝わる文化や技術、生活習慣などを学び、それを次に伝えていく学問です。調布に人が住み始めたのは、およそ2万5000年前といわれています。調布市内には野川遺跡や深大寺など歴史を感じさせる遺跡

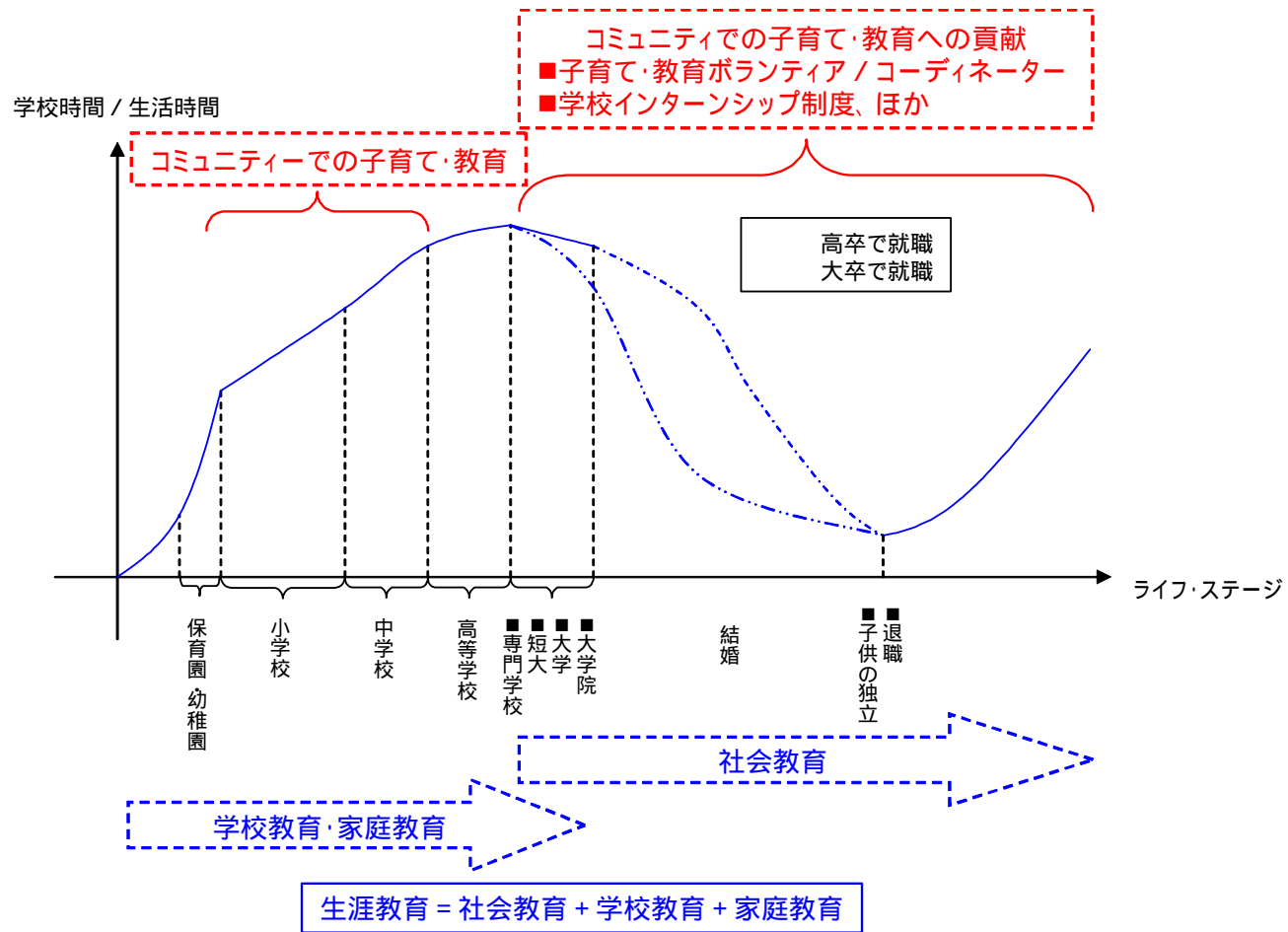
や自然、建築物が数多く残っています。過去の歴史だけでなく、産業、文化、教育、人々の生活も含めて研究していけば、そこから「新しい調布」「より豊かなコミュニティとしての調布」のあり方が見えてくるでしょう。「調布学」とは調布の生涯学習における新たな試みであり、これから確立していく分野です。そのためには「情報の拠点の場」つまり「生涯学習の場」で市民が中心となって研究プロジェクトチームを編成、活動していく必要があります。

こうした地域学習は調布に限るものではなく、例えば「梅干づくり」や「そば打ち」など、地域を超えたものであってもいいでしょう。そうした生涯学習の詳細な情報を「生涯学習の拠点」となる組織が発信し、支援を行って、生涯学習の輪を広げることも可能となります。

10.2. 地域力の向上に向けた人づくり

近年、ライフ・スタイルが多様化し、経済的な豊かさよりも心の豊かさを追求する傾向が強まりつつあります。また、ボランティア活動などを通じて、何か社会の役に立ちたいと考えている人たちも増えてきています。情報通信技術を活用すれば、時間や場所の制約を克服することができるため、個人のライフ・スタイルにあわせた社会貢献が可能となり、多くの人たちが自分自身の知恵や経験を持ち寄り、地域コミュニティの活性化に資することができるようになります。こうした社会貢献の仕組みが広く行きわたれば、地域力を向上させる人づくりが可能となります。

人づくりでは教育が重要な役割を果たします。教育はさまざまなライフ・ステージを豊かにし、生涯続くものです。また、教育の場は必ずしも学校だけに限られず、家庭や社会も含まれます。したがって、教育は「生涯教育 = 学校教育 + 社会教育 + 家庭教育」という構図で成り立っているとみなすことができます。学校教育、社会教育、そして家庭教育のいずれも、地域コミュニティとの深い係わりをともなっています。そのため、「生涯教育 = 学校教育 + 社会教育 + 家庭教育」という構図を前提に教育の充実に向けた総合的な取り組みが展開されることが、地域力の向上に資することになります。



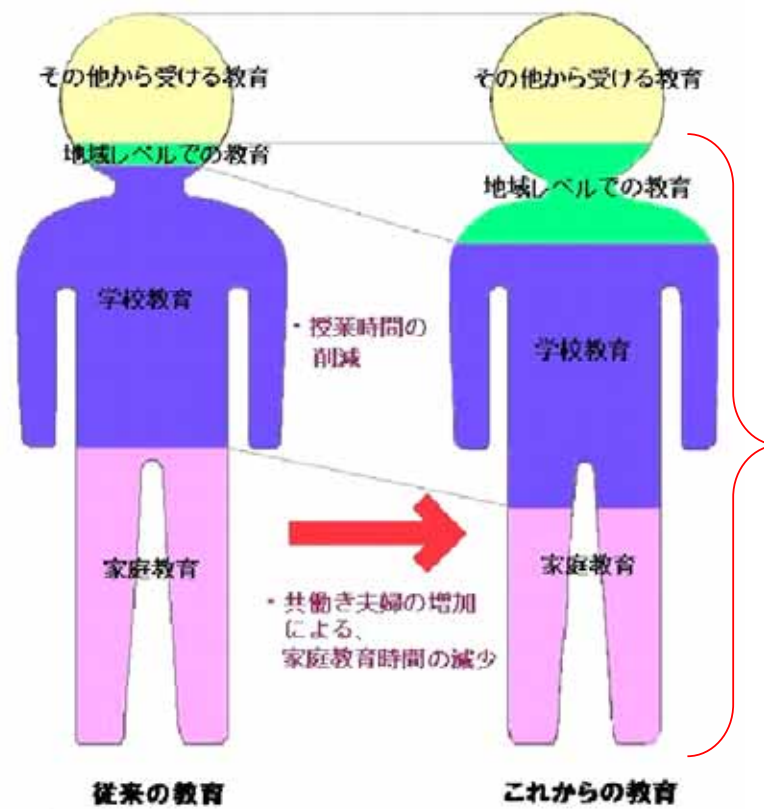
図表 29 ライフ・ステージと教育³⁵

³⁵ ワーキング・グループ 1 - サブワーキング・グループ 2 作成。

現在調布市では、地域に根ざした高付加価値型の教育を提供するための総合的な取り組みを進めています。こうした総合的な取り組みがもたらす効果をより大きなものとするためにも、単に行政に任せおくだけではなく、行政だけでは行き届かない部分に市民が積極的に協力していくことが求められます。地域情報化はこうした市民と行政の協働型の教育の基盤を提供します。

市民と行政の協働が求められる領域としては、主に以下が挙げられます。

- 学校教育のサポート
 - 学習支援
 - 地域特性を活かした学習内容（「調布学」、など）の開発・提供
 - 課外活動支援、ほか
- 社会教育のサポート
 - 学習機会の拡大支援
 - コミュニティ・リソースを活かした人的ネットワークの形成、ほか
- 家庭教育のサポート
 - 子育て支援情報の提供
 - 子供の居場所づくり、ほか



家庭教育 学校教育の不足分を「地域レベルでの教育」で補う

図表 30 教育を取り巻く環境変化と地域レベルでの教育の必要性³⁶

³⁶ ワーキング・グループ 1 - サブワーキング・グループ 2 作成。

こうした市民と行政の協働型の仕組みを確立・維持するためには、まず人材の確保・育成が必要です。市民と行政の協働が求められる領域で必要とされる人材は、十分な知恵・知識やノウハウを備えた市民ボランティアと、市民ボランティア間の連携を保つエージェントから構成されます。

地域メディアと融合する形で情報通信技術を活用すれば、求められる人材を掘り起こしたり、こうした人材の活躍の場を発見したりすることが、従来よりも容易になります。具体的には、さまざまな教育(学校教育、社会教育、家庭教育)の現場で生じるニーズのデータベース化と、市民ボランティアのデータベース化を進め、両データベースを連携させることで、問題の正確な把握や解決手段の迅速な発見、適材適所の実現、今後生じる可能性のある新たな問題の予想、などが可能になるということです。また、こうしたデータベース化が進めば、市民同士が互いに交流を図りながらネットワークを広げ、自らの手で状況の分析や解決方法を発見することにもつながり、調布の地域力の向上が生み出されるでしょう。

11. まとめ - 調布方式による地域情報化の今後のあり方 -

11.1. 「視点」から「手」へ発想の転換

多くの地域情報化基本計画では、市民(生活者)の「視点から」、ないし、「視点に立つ」という標語が強調されています。しかし、この標語は、市民(生活者)にとっては、「誰かにやってもらう」という発想と切っても切れないものを含んでいます。

わたしたちが市民(生活者)として、くらしやしごとの場で直面する問題群への解決策は、わたしたち自身が構想してこそ有効で効果的なものになります。「視点」という手法は、その意味では真の情報化の推進には限界を有するものです。

そのため、わたしたちはこの「視点」という手法に発想的に決別し、「手による」という観点を導入しました。こうして、本基本計画書をつくり上げました。

11.2. 地域情報化の発展のための条件

市民(生活者)が自らの「手による」地域情報化を目指した構想や計画を自律的・主体的につくり上げていくためには、満たされるべきいくつかの条件があります。

11.2.1. 公論・討論の必要性

市民(生活者)が、「私民」(単に自己の個別的な利害や意見を主張するだけのあり方)から脱却し、責任ある貢献ができる真の「市民」になるためには、利他的な観点から、くらしやしごとの場において生じる問題に関して公論・討論を続けていくことが必要です。実際の会議や勉強会の開催の他、電子掲示板、電子会議室、メーリング・リスト等の活用が必須でしょう。リアル・スペース(実際の「場」とバーチャル・スペース(ネットワーク空間における「場」との組み合わせを考え、可能な限りコミュニケーションを図る機会を増やすということです。こうしたコミュニケーションは、必然的に、市民が本当に必要としている情報を生み出すことになります。

11.2.2. 学びの場

公論・討論が広く行われ、合意形成が可能となるプロセスにおいては、「学習」の場が必要です。知識や認識の高度化は学びによってのみ可能になります。合理的な意思決定を支援するのも学びの場の重要な役割です。

11.2.3. 調整機関・組織

人々の協働を組織化し、合意形成を促進するための調整機関・組織が必要です。それは特定の利害から自由であり、相反する利害を克服するための提案を行う力量を有していなければなりません。第三セクターやNPO、大学等がそれを担う候補として考えられます。

11.2.4. 専門知識・経験の獲得

市民(生活者)は生活のプロフェッショナルですが、必ずしも行政や情報技術の利活用について十分な専門知識を持っているわけではありません。複雑化する社会システムや技術に対応するためには、大学や事業所、行政との協働、調査・研究機関からのサービス(専門知識)の購入、NPOやリタイア人材の適切な活用等が必要です。

11.2.5. 情報技術の「市民化」

情報技術は、まだまだ市民には優しくありません。産業技術として研ぎ澄まされた情報技術を市民化するためには、情報技術の開発や情報システムの構築に取り組む民間事業者や情報機器のメーカー等とのコミュニケーションが必要です。また、市民(生活者)が、情報技術の基本的な知識を学ぶことも必要です。市民(生活者)が自律的・主体的な解決を構想するためには、解決のための道具立ての知識が必須であるからです。ここにもまた、「学び」の場の重要な意味があります。

11.2.6. 計画の持続的(動的)形成と発展

地域情報化基本計画は、継続的・動的に形成されなければなりません。情報技術が急速に発展するからであり、したがって、それを用いた問題解決の手法やシステムも常に見直される必要があるからです。行き着く先を固定化できない情報化現象に対しては、学習活動をともなった持続的・動的な計画化作業が不可欠です。

11.2.7. モニタリングシステムの構築

策定された計画が実行されるかどうかをチェックするモニタ活動が必要です。このモニタ活動には、市民(生活者)が参加しなければなりません。それは「私民」としての単なる参加ではなく、「真の市民」としての参加でなければなりません。また、適切な技術的対応についてもチェックが必要なため、ここでも学習活動と一体化した参加が求められます。

11.3. 調布方式によるこれからの地域情報化への期待

調布方式は市民や大学、事業者、行政などが協働で地域情報化について議論を重ね、将来像を練り上げることを意味しています。このような取り組みには先例がないため、従来の構想・計画・政策づくりのプロセスから逸脱し、意見の集約が難しくなるという側面も有していました。しかしながら、くらしやしごと、ひとづくり、などの場における市民の生の声を今後の調布市の政策に反映させるためには、調布方式にともなう困難や試行錯誤を避けることはできません。

情報通信技術は従来のコミュニケーションの限界を超えることを可能にしてくれます。本基本計画書をまとめ上げていく中でも、情報通信技術は大きな役割を果たしました。参加メンバー間の自発的なやりとりも含め議論にかけられる時間が増したことや、これまでは見過ごされてきたようなくらしの場での課題が明らかになったことなど、調布方式が試行的であれ、より望ましい問題解決のプロセスが示されたといえます。

常に学び、現実に関与(参加)し、他者との関係をねばり強く形成し、討議する「強い市民」がこれから

の調布市民の理想像です。このような姿勢がとられる限り、地域情報化が調布市の発展に資することに疑う余地はありません。

資料

平成 14 年度 調布市地域情報化基本計画策定委員会委員名簿

平成 14 年3月～平成 15 年3月

委員長	三木 哲也	電気通信大学附属図書館館長 電気通信大学電気通信学部 情報通信工学科教授
副委員長	福田 豊	電気通信大学電気通信学部 人間コミュニケーション学科教授
委員	猪瀬 和恵	市民(若手商人塾)
	岩澤 敬子	調布市総合福祉センター 障害者生活支援事業者
	勝又 茂成	調布ケーブルテレビ株式会社 総合企画部長代行
	對木 誠子	白百合女子大学 大学生
	都築 賢二	NPO法人、調布まちづくりの会理事、他
	原島 芳一	調布市商工会副会長
オブザーバー	米澤 邦彦	電気通信大学大学院情報システム学研究科 情報ネットワーク学専攻福田研究室 修士課程 2 年
事務局	和泉 恵子	株式会社 キャンパスクリエイト
	調布市総務部情報管理課	
	株式会社キャンパスクリエイト	

平成 15 年度 調布市地域情報化基本計画策定委員会委員名簿

平成 15 年 4 月 ~ 平成 16 年 3 月

委員長	福田 豊	電気通信大学電気通信学部 人間コミュニケーション学科教授	
副委員長	中嶋信生	電気通信大学電気通信学部 人間コミュニケーション学科教授	
委員	猪瀬 和恵	市民(若手商人塾)	
	岩澤 敬子	調布市総合福祉センター 障害者生活支援事業者	
	勝又 茂成	調布ケーブルテレビ株式会社 総合企画部長代行	
	佐藤恵美	白百合女子大学 大学院生	
	原島 芳一	調布市商工会副会長 電気通信大学付属図書館館長	
	三木 哲也	電気通信大学電気通信学部 情報通信工学科教授	
	矢嶋 崇志	調布パソコンサークル代表	
	山村 俊弘	株式会社 生活構造研究所取締役	
	オブザーバー	吉浦 裕	電気通信大学電気通信学部 人間コミュニケーション学科助教授
		永野 寛(執筆協力者)	株式会社 情報通信総合研究所リサーチャー
斉藤 梓		電気通信大学電気通信学部 人間コミュニケーション学科福田研究室 学部4年	
及川 隆博		電気通信大学電気通信学部 人間コミュニケーション学科中嶋研究室 学部4年	
事務局	和泉 恵子	株式会社 キャンパスクリエイト	
	調布市総務部情報管理課		
	株式会社キャンパスクリエイト		

WG・SWG参加者名簿(順不同、敬称略)

下記の方々はワーキング(WG)、サブワーキング(SWG)活動に参加され、ご本人了承のもと掲載をさせていただいています。

阿部 晃一	小林 平和	中村 和正
阿部 武司	小山 和茂	花角 美智子
阿部 勉	齊藤 梓	馬場 寿実
新井 利佳	齊藤 幸司	早川 昌敏
有本 眞也	桜井 聡	原島 芳一
五十嵐 花織	佐々木 努	樋口 大量
池本 賢司	佐藤 光司	土方 和巳
石倉 健	佐藤 順	土方 裕文
和泉 恵子	佐藤 大介	福島いづみ
伊藤 太郎	座間 直壮	福田 豊
井上 英和	嶋田 敏夫	古谷 実
猪瀬 和恵	島村 誠	増淵 勝典
岩澤 敬子	末長 学	松崎 勝利
内野 夏子	菅原 真司	松本 聡
及川 隆博	鈴木 孝一	丸山 義治
大内ゆみ子	返田 玲子	三木 哲也
大島 敏子	大総 隆一	宮野 重夫
大原 功	高橋 雄亮	村松 敬三
大前 克巳	高原 陽子	森 浩志
小笠原 崇	高柳 雄一	森 弘子
尾辻 義和	竹内 利明	森木 繁
片桐 雅教	竹本 正男	森田 純一
勝又 茂成	對木 誠子	森田 照道
加藤 達也	土屋 卓之	矢嶋 崇志
加藤 弘道	都築 賢二	谷中 邦彦
唐沢 俊一	椿 美智子	山口 昌之
小池 信彦	富塚 整	山村 俊弘
鴻本 夏彦	富安 光次	山本 猛次
五藤 知恵	中川 尚亮	依岡 正明
後藤 舞	中嶋 信生	横山 泰治
小林 明男	長友 真理子	吉浦 裕
小林 宣行	永野 寛	米澤 邦彦

協力企業

下記の企業にはボランティアでご参加いただきました。

松下電器産業株式会社
株式会社 NTTドコモ 多摩支店

謝 辞

本計画書策定にあたりましては、氏名掲載者以外の方々、講演会等参加者、eコミュニティボランティア等多くの皆様のご協力をいただきました。ありがとうございました。またレクチャー等をいただきWG活動に参加された企業各社へ心よりお礼を申し上げます。

イベント活動報告

開催日時	イベント	テーマ	講師(敬称略)	所属	参加人数
2002/9/4(火)	講演会	「市民と行政の協働で進める地域情報化」	清原 慶子	東京工科大学メディア学部部長	88
1	たづくり映像シアター	「環境を切り口にしたまちづくりから広がるネットワーク」	久保里 砂子	早稲田商店会	
2002/12/7(土)	講演会	三鷹市のまちづくり - 責任ある市民参加と協働に向けて -	前田 隆正		23
2	たづくり学習室 1002				
2002/12/10(火)	講演会	「携帯モードの地域メディアとしての可能性」	潮田 邦夫	(株)NTTドコモ法人営業部長	35
3	電気通信大学リサーチ 3 階 2003/4~6 IT 講座 市内小中学校協力校(順不同) 調和小		田中 孝典 山崎 堯之 谷中 邦彦 和泉 恵子	電気通信大学電気通信学部電子工学科 電気通信大学電気通信学部情報工学科 NPO 法人ちようふどっとこむ 株式会社キャンパスクリエイト	162
4	深大寺小 第一小、第三小、石原小、 富士見台小、八雲台小、多摩川小、 染地小、杉森小、飛田給小、 第三中、第七中、第八中 下石原地域センター	「生活に役立つインターネット講座」	和泉 恵子	株式会社キャンパスクリエイト	
	電気通信大学創立 80 周年記念会館	「携帯ホームページ作成講座」	(株)NTTドコモ多摩支店		
5	2003/4/17(木) ハス見学会	松下電器・パナソニックセンター (株)NTTドコモ多摩支店			
		「情報家電プラットフォームを活用した公共&民間サービスの融合について」	若林 裕幸	松下電器産業(株)	
2003/5/30(金)	IT フェスタ	「通信放送融合時代への産業人文学的視点について」	佐藤 靖之	産業人文学研究所	72
6	たづくり映像シアター	「モバイルが変える市民生活」	横山 光明	(株)NTTドコモ多摩支店	
	中間報告シンポジウム	「調布に公共 IDC を！」 ～地域情報化の核となるデータセンター～	小林 宣行	アニー(株)	
2003/9/4(金)	中間報告シンポジウム	「地域ポータルサイトちようふ・どっと・こむの目指すもの」	大前 勝巳	特定非営利活動法人 地域ポータルサイト推進協会 ちようふどっとこむ	135
7	たづくり大会議場	私たちの e コミュニティ構想 パネルディスカッション コーディネーター・福田豊(電気通信大学)	小林 宏一	東洋大学社会学部教授	
2003/9/12(金)	WG5 キックオフシンポジウム	「知の協働空間としての図書館」 - 地域情報化拠点としての図書館 - パネルディスカッション コーディネーター・山村俊弘(株)生活構造研究所)	竹内 利明	電気通信大学客員教授、ビジネス支援図書館推進協議会会長	70
8	たづくり映像シアター	竹内利明(電気通信大学)、福田豊(電気通信大学)、三木哲也(電気通信大学)、座間直壯(調布市立図書館)、依岡正明(ネクストソリューション(株))			
2003/12/8(月)	講演会・シンポジウム	「未来をつくる図書館」 - 地域情報化拠点としての図書館 - パネルディスカッション コーディネーター・竹内利明(電気通信大学)	菅谷 明子	経済産業研究所研究員	135
9	たづくり大会議場	菅谷明子(産業経済研究所)、福田豊(電気通信大学)、座間直壯(調布市立図書館)			
2004/1/24(土)	講演会・WG5 市民フォーラム	「図書館は日本を救う」 - 地域情報化拠点としての図書館 - パネルディスカッション コーディネーター・竹内利明(電気通信大学客員教授)	常世田 良	浦安市立図書館長	125
10	たづくり映像シアター	常世田良(浦安市立図書館)、福田豊(電気通信大学)、座間直壯(調布市立図書館)			

委員会活動報告

開催日時			会場	議題
第1回	策定委員会	2002/3/25(月)	たづくり西館5階OA室	委員会の設置について 調布市の情報化の現状について
第2回	策定委員会	2002/5/7(火)	たづくり西館5階OA室	地域情報化の動向 地域情報化の検討
第3回	策定委員会	2002/6/11(火)	たづくり西館5階OA室	先進市に事例から(藤沢市の報告) WG等について
第4回	策定委員会	2002/7/12(火)	たづくり西館5階OA室	講演会について WGについて BBS公開に向けて(運用方法等)
第5回	策定委員会	2002/9/3(火)	たづくり西館5階OA室	講演会について WG経過報告
第6回	策定委員会	2002/10/8(火)	たづくり西館5階OA室	講演会の報告 WG経過報告 電子自治体への取組み 調 布市IT推進本部進捗状況
第7回	策定委員会	2002/11/7(月)	たづくり西館5階OA室	各WGの進捗状況報告及びまとめに向けてのスケジュール 今 後のスケジュール
第8回	策定委員会	2002/12/7(月)	たづくり西館5階OA室	今年度各WGのまとめ 基本計画策定方法について意見交換
第9回	策定委員会	2003/1/9(月)	たづくり西館5階OA室	各WGの経過報告 今年度各WGのまとめ
第10回	策定委員会	2003/2/27(月)	たづくり西館5階OA室	WG1、2経過報告 中間報告について
第11回	策定委員会	2002/4/23(木)	たづくり西館5階OA室	WG経過報告 アンケート結果報告 中間報告書 新年度体制について
第12回	策定委員会	2003/5/21(木)	たづくり西館5階OA室	委員委嘱 副委員長互選 委員長挨拶 委員会の経過 今後のスケジュール
第13回	策定委員会	2003/6/25(水)	たづくり西館5階OA室	各WGの活動報告 基本計画の方針について WG5設置につ いて
第14回	策定委員会	2003/7/24(木)	たづくり西館5階OA室	各WGからの活動報告 基本計画目次案
第15回	策定委員会	2003/8/28(木)	たづくり西館5階OA室	WGの経過報告 WSS報告 目次案・課題シート
第16回	策定委員会	2003/10/2(木)	たづくり西館5階OA室	WGの経過報告 アンケート結果報告 中間報告書 新年度体制について
第17回	策定委員会	2003/11/6(木)	たづくり西館5階OA室	WG・SWGの活動報告 計画書作成の進捗状況について
第18回	策定委員会	2003/12/5(金)	たづくり西館5階OA室	WG活動報告 計画書作成状況について 計画書案について
第19回	策定委員会	2004/1/15(木)	たづくり西館5階OA室	WG・SWGの活動報告 計画書案について
第20回	策定委員会	2004/2/25(木)	たづくり西館5階OA室	WG・SWG経過報告 計画書最終案 基本計画書参加氏名の掲載方法について

拡大WSS活動報告

開催日時		会場	議題
第1回	拡大WSS会合 2003/11/4(火)	電気通信大学リサーチ 3階	調布市地域情報化基本計画・計画書案進行状況確認ならびに今後の進め方
第2回	拡大WSS会合 2003/12/2(火)	電気通信大学リサーチ 3階	調布市地域情報化基本計画書第1稿読み合わせ 各WGより補足説明 基本計画書概略版について
第3回	拡大WSS会合 2003/12/19(火)	電気通信大学リサーチ 3階	計画書第2稿(初稿の集約版)について 今後の進め方(スケジュール)
第4回	拡大WSS会合 2004/1/9(金)	電気通信大学リサーチ 3階	新委員紹介 調布市地域情報化基本計画(配布資料)作成に至る経緯 意見交換 調布市地域情報化基本計画(配布資料)作成に至る経緯 上記報告
第5回	拡大WSS会合 2004/1/30(金)	電気通信大学リサーチ 3階	に基づく意見交換 計画書作成参加者の表記について 今後の進め方
第6回	拡大WSS会合 2004/2/13(金)	電気通信大学リサーチ 3階	計画書・修正第1稿について 報告に基づく意見交換 計画書作成参加者の表記について 今後の進め方
第7回	拡大WSS会合 2004/2/20(金)	電気通信大学リサーチ 1階	計画書・修正第2稿(最終稿)について 意見交換ならびに討議結果 基本計画編集上の諸課題について 今後の進め方

WG1活動報告

	開催日時	会場	議題
第1回	WG1 オープンゼミ 2002/6/3(月)	電気通信大学リサーチ階	藤沢市地域情報化基本計画第1章、2章の検討
第2回	WG1 オープンゼミ 2002/6/10(月)	電気通信大学リサーチ階	藤沢市地域情報化基本計画第2章の検討
第3回	WG1 オープンゼミ 2002/6/17(月)	電気通信大学リサーチ階	藤沢市地域情報化基本計画第3章～6章の検討
第4回	WG1 オープンゼミ 2002/6/24(月)	電気通信大学リサーチ階	三鷹市地域情報化基本計画研究(1)
第5回	WG1 オープンゼミ 2002/6/29(月)	電気通信大学リサーチ階	三鷹市地域情報化基本計画についての検討(1)
第6回	WG1 オープンゼミ 2002/7/8(月)	電気通信大学リサーチ階	三鷹市地域情報化基本計画研究(2) 調布市の市民参加について その 他調布市の情報化について ゼミレポート「私の地域情報化」
第7回	WG1 オープンゼミ 2002/7/15(月)	電気通信大学リサーチ階	ゼミレポート「私の地域情報化」
第8回	WG1 オープンゼミ 2002/7/22(月)	電気通信大学リサーチ階	ゼミレポート「私の地域情報化」
第9回	WG1 オープンゼミ 2003/7/29(月)	電気通信大学リサーチ階	調布市総合計画基本構想の要約報告 調布市総合基本計画第1編総論の要約報告
第10回	WG1 オープンゼミ 2003/8/5(月)	電気通信大学リサーチ階	調布市地域情報化オープンゼミを振り返って
第11回	WG1 オープンゼミ 2002/10/15(火)	電気通信大学リサーチ階	長友市長のお話 CATV 取材 自己紹介 WGの枠組みと位置づけ 第1期オープンゼミ紹介 第2期オープンゼミ 有効な事務処理 10/22の議題 調布市地域情報化策定委員会及びオープンゼミ見取り図 課題記入用紙
第12回	WG1 オープンゼミ 2002/10/22(火)	電気通信大学リサーチ階	各SWG参加希望者リスト オープンゼミの運営について サポート会議からの連絡事項 広報について 先進事例1
第13回	WG1 オープンゼミ 2002/10/29(火)	電気通信大学リサーチ階	3つのSWG(人脈・教育・行政)のキックオフミーティングの概要説明とフリーディスカッション SWG活動
第14回	WG1 オープンゼミ 2002/11/5(火)	電気通信大学リサーチ階	第3回議事録について サポート会議からの報告 情報化の基礎知識 1 SWGからの報告 SWG活動
第15回	WG1 オープンゼミ 2002/11/19(火)	電気通信大学リサーチ階	SWG報告 調布地域サイトについての報告 サポート会議からの連絡等 先進事例研究2
第16回	WG1 オープンゼミ 2002/11/26(火)	電気通信大学リサーチ階	情報化の基礎知識2 サポート会議の報告 WG2の実態調査について 日本工業新聞(11月18日)に調布市でWSS設置が決まったと発表 SWG 報告
第17回	WG1 オープンゼミ 2002/12/3(火)	電気通信大学リサーチ階	先進事例3 新参加者紹介 サポート会議から WSSからの報告 7日特別公開オープンゼミ開催要領 WG2アンケートについて 各SWGの報 告
第18回	WG1 オープンゼミ 2002/12/7(土)	たづくり学習室 1002	教育SWGからの報告 講演会「責任ある参加と協働に向けて - ITを利用し た三鷹市のまちづくり - 前田隆正氏(三鷹市情報政策コーディネーター) - ITを利用した三鷹市のまちづくり - 」前田隆正氏
第19回	WG1 オープンゼミ 2002/12/10(火)	電気通信大学リサーチ階	講演会「携帯 i モードの地域メディアとしての可能性」潮田邦夫氏(株NTT ドコ モ法人営業本部長)
第20回	WG1 オープンゼミ 2002/12/17(火)	電気通信大学リサーチ階	人脈ネットワークから 行政サービスWGから 30秒スピーチ 第2期を 終えて
第21回	WG1 オープンゼミ 2003/1/28(火)	電気通信大学リサーチ階	策定委員会からの報告 HP紹介(日経アワード受賞) SWG報告
第22回	WG1 オープンゼミ 2003/2/28(金)	たづくり学習室 1002	お知らせ 新企画・予定 卒論発表「地域ポータルサイトの現状と課題」(福田 研松崎勝利) SWG報告
第23回	WG1 オープンゼミ 2003/3/25(火)	電気通信大学リサーチ階	お知らせ 情報化の基礎知識 SWG報告
第24回	WG1 オープンゼミ 2003/4/22(火)	電気通信大学リサーチ階	お知らせ 情報化の基礎知識(福田研榎口大量) SWGからの報告
第25回	WG1 オープンゼミ 2003/5/16(金)	電気通信大学リサーチ階	お知らせ 各WG・SWGからの報告 基本計画作成の心得 議事録作 成講座 情報化の動向(ニュースから)福田研齊藤梓
第26回	WG1 オープンゼミ 2003/5/27(火)	電気通信大学リサーチ階	お知らせ 特別講演「生活者の観点から地域情報化」- デモ技術の問題 解決 - 各WG・SWGからの報告
第27回	WG1 オープンゼミ 2003/6/10(火)	電気通信大学リサーチ階	お知らせ 特別講演「近未来型端末の可能性 - au の考える携帯ライフ - 」大 村好則氏(KDDI ソリューション事業本部コンテンツサポート部) 各WG・SWGからの報 告 情報化リソースインテグレーション モデル・スピリットについて 次回宿題
第28回	WG1 オープンゼミ 2003/6/24(火)	電気通信大学リサーチ階	特別報告「インターネット時代の新しい図書館の方向性」山村俊弘氏(株生活構 造研究所副首席研究員) 各WG・SWGからの報告 ディスカッション:私たちが直 面する問題
第29回	WG1 オープンゼミ 2003/7/8(火)	電気通信大学リサーチ階	特別報告「IT革命による市役所の変革」土方和巳氏(調布市総務部情報管理 課) ディスカッションレポート
第30回	WG1 オープンゼミ (SWGメンバー 運営による自	電気通信大学リサーチ階	情報共有のためのレクチャー 報告書目次案を知る フリーディスカッション

主ゼミ)

第 31 回	WG1 オープンゼミ	2003/8/12(火)	電気通信大学リサーチ階	委員会及び各WG・SWG活動報告 特別講演「ネットワーク社会の将来像 - 近未来・IT 社会の構想」分析 - 永野寛氏 (株情報通信総合研究所政策研究グループ リサーチャー) 情報化社会論の学習ガイダンス 永野寛氏
第 32 回	WG1 オープンゼミ (第 2 回自主ゼミ)	2003/8/26(火)	電気通信大学リサーチ階	各SWGの執筆活動について
第 33 回	WG1 オープンゼミ	2003/9/9(火)	電気通信大学リサーチ階	特別講演「身近な最新情報技術のあれこれ」- デモ技術のあれこれ - 佐藤佳宏氏 (武蔵野大学現代社会学部教授) 各種報告 計画書作成の執筆要領について 第 4 期オープンゼミについて
第 34 回	WG1 オープンゼミ	2003/10/14(火)	電気通信大学リサーチ階	WG1 主査より 地域情報化とは何だろう 電気通信大学人間コミュニケーション学科 福田豊教授 自己紹介 オープンゼミの進め方 質疑応答及びアンケート回答
第 35 回	WG1 オープンゼミ	2003/10/28(火)	電気通信大学リサーチ階	情報化社会論の系譜 オープンゼミメンバー同士の情報交換
第 36 回	WG1 オープンゼミ	2003/11/11(火)	電気通信大学リサーチ階	お知らせ 講義「モバイルテクノロジーの最前線」電気通信大学人間コミュニケーション学科 中嶋信生教授 地域情報化のヒント 諸連絡
第 37 回	WG1 オープンゼミ	2003/11/25(火)	電気通信大学リサーチ階	学習のヒント 特別講演「ネットワークセキュリティの動向」電気通信大学人間コミュニケーション学科 吉浦裕助教授 1 分間スピーチ
第 38 回	WG1 オープンゼミ	2003/12/9(火)	電気通信大学リサーチ階	特別講演「市の施策体系における地域情報化基本計画の位置づけ・性格」増淵勝典氏 (日本貿易振興機構対日投資部地域支援課、調布市総務部職員課) 各種報告、配布資料説明 1 分間スピーチ、最新の IT の動向を知る 「特別オープンゼミ」の提案
第 39 回	WG1 オープンゼミ	2004/1/13(火)	電気通信大学リサーチ階	講演「近未来携帯電話の衝撃」藤澤一郎氏 (株NTT ドコモ移動機開発部) 「私と IT」レポート 1 分間スピーチ
第 40 回	WG1 オープンゼミ	2004/1/27(火)	電気通信大学リサーチ階	講演「インターネットとサブカルチャー」永野寛氏 (株情報通信総合研究所政策研究グループ リサーチャー) 制作中の基本計画書について
第 41 回	WG1 オープンゼミ	2004/2/10(火)	電気通信大学リサーチ階	福田研究室修士論文発表 (森嶋荘一郎、陳 穎嬌、木島哲郎)
第 42 回	WG1 オープンゼミ	2004/2/24(火)	電気通信大学リサーチ階	福田研究室卒業論文発表 (花村研吾、白石俊博、仲山静代、齋藤梓、石倉健) 講演 (講義)
第 43 回	WG1 オープンゼミ	2004/3/9(火)	電気通信大学リサーチ階	地域情報化の先進事例 - 大和市を例に - 報告者: 齋藤梓
第 44 回	WG1 オープンゼミ	2004/3/23(火)	電気通信大学リサーチ階	電気通信大学大学院福田研学部 4 年 ディスカッション「私の地域情報化」

SWG1活動報告

開催日時			会場	議題
第7回	SWG1 会合	2002/11/26(火)	電気通信大学 80 周年記念館 (リサーチ) 3F	ポータルサイト紹介 ディスカッション
第8回	SWG1 会合	2002/12/3(火)	電気通信大学 80 周年記念館 (リサーチ) 3F	情報を求める人との接点に NO.44 の補足説明 人脈ネット中間報告のフレーム案の説明
第9回	SWG1 会合	2002/12/7(土)	市役所 6F	12/17 中間発表の方向について 中間報告(12/17)について
	SWG1 会合	2003/2/4(火)	調布市市民センター 1F 研修室	<p>前回の記録として、 1/14(火) たづくり 10F はなみずき 1/20(月) 市役所 6F 男子休憩室 1/27(月) 総合福祉センター 4F 相互塾に参加(地域情報化について)</p> <p>今後の進め方について 地域の特性</p>
	SWG1 会合	2003/2/10(火)	調布市役所 第3 会議室	<p>人と人のつながりの重要性 地域通貨について 情報の値段について 団体行動におけるコストの問題</p>
	SWG1 会合	2003/2/24(月)	市役所 3F 第1 会議室	<p>前回の記録として、 2/17(月) 市役所 6F 男子休憩室 新たなメディア空間、調布のマルチメディア等につ いての発表と意見交換</p> <p>総合計画との関連について</p>
	SWG1 会合	2003/5/12(月)	たづくり 11F・みんなの広場	<p>前回の記録として、 3/ 4(火) たづくり 1201 会議室 3/11(火) たづくり 1201 会議室 3/17(月) 市役所 6F 男子休憩室 3/24(月) 市役所 6F 男子休憩室 4/28(月) 総合福祉センター 4F 相互塾の企画会議に参加 5/ 6(火) たづくり 11F みんなの広場 相互塾との連携、清瀬市訪問の検討</p> <p>情報の伝播力 実践プロジェクトの検討</p>
	SWG1 会合	2003/6/3(月)	たづくり 11F・みんなの広場	<p>5/20(火) たづくり 11F みんなの広場 5/26(月) 市役所 6F 男子休憩室 WG4 との関係、アクションプログラム等について 検討</p> <p>一般連絡・報告 地域メディアの調査結果概要報告 地域情報化の課題と地域情報化の方向</p>

	SWG1 会合	2003/6/23(月)	市役所男子休憩室	6/8(日) 清瀬市訪問 清瀬市市民参加支援センター訪問調査 6/9(月) たづくり 11F みんなの広場 清瀬市訪問結果の報告、地域通貨体験デ モの報告その他 6/17(火) たづくり 11F みんなの広場
	SWG1 会合	2003/7/1(火)	たづくり 11F・みんなの広場	7月の中間発表について 今後の予定について 中間発表案
第 30 回	SWG1 会合	2003/7/15(火)	たづくり 11F・みんなの広場	WG4 への呼びかけについて キャッチボールについて ご隠居さんシステムについて 目次について 次回以降について
第 31 回	SWG1 会合	2003/7/29(火)	市役所 6F 男子休憩室	策定委員会の報告 目次案の検討 キ ャッチボールの検討 ご隠居さんシステムの人材 育成について レポート報告
	SWG1 会合	2003/8/5(火)	たづくり 11F・みんなの広場	WG4 について 市民参加について ご 隠居さんシステムについて 目次案につい て 次回以降について
第 32 回	SWG1 会合	2003/8/19(火)	たづくり 11F・みんなの広場	ご隠居さんシステムについて 情報収集の 方法と扱いについて WG4 との合流につ いて

SWG2 (教育)活動報告

開催日時	会場	議題
SWG2 会合 2002/10/22(水)	電気通信大学リサーチ 3 階	自己紹介 フリートーク
SWG2 会合 2002/10/29(水)	電気通信大学リサーチ 3 階	フリートーク 学習の森構想への提案
SWG2 会合 2002/11/ 5(火)	電気通信大学リサーチ 3 階	参加メンバーとしての意見表明 意見交換
SWG2 会合 2002/11/19(火)	電気通信大学リサーチ 3 階	前回の復習 意見発表 提案事項 教育SWGメンバーとしての各個人意見表明 (「夢」を語る)
SWG2 会合 2002/11/26(火)	電気通信大学リサーチ 3 階	意見交換 提案事項の取り纏め方法をどうするのか 調布市教育委員会の話を聞くことの要否について 「教育SWG」の紹介文作成について
SWG2 会合 2002/12/ 3(火)	電気通信大学リサーチ 3 階	前回議事録の確認 SWGとしてのとりまとめ作業 意見とり纏めの方法 意見とり纏めの目的
SWG2 会合 2002/12/ 5(水)	市民センター1階 研修室	意見とり纏めの結果(現状認識ないしは現状把握レベルの意見) 意見とり纏めの結果(問題意識ないしは提起レベルの意見) 意見とり纏めの結果(解決方向ないしは具体的提案レベルの意見)
SWG2 会合 2002/12/ 7(金)	電気通信大学リサーチ 3 階	「教育SWG」での意見とり纏め結果について 「現状認識レベル」並びに「問題意識レベル」の意見分類について
SWG2 会合 2002/12/17(火)	電気通信大学東 6-801	「教育SWG」と他のSWG(「人脈」及び「行政」)との検討調整・協調・ 共同が必要ではないか? 「解決方向・具体的提案レベル」の意見に関すること
SWG2 会合 2003/ 1/ 9(木)	市役所 8 階第 8 会議室	「学習の森」構想に関して 「教育SWG」意見の整理-他のWG / SWGとの関連について
SWG2 会合 2003/1/23(木)	市民センター 1 階研修室	市民活動支援センターに関する意見交換 学校図書館の現状について
SWG2 会合 2003/ 2/20(木)	市民センター 1 階研修室	三鷹市での学校図書館整備状況 子どもを取り巻く教育・安全環境について 学校教育情報化検討の方向性と内容についての提案 学校教育情報化検討の方向性と内容についての提案の継続として、
SWG2 会合 2003/ 3/ 6(木)	市役所 6 階図書教養室	教育委員会等のHPの比較を行った。 WG1 が3月をひと区切りとして作成する報告書にあわせ、 教育SWGとしての「まとめ」を提出するかどうかについての検討 調布市教育・安全環境の現状(統)・「PTAの仕事と役割分担」の検討
SWG2 会合 2003/ 3/20(木)	市役所 6 階図書教養室	学校教育情報化検討の方向性と内容についての提案 教育SWG報告の確認 今後の教育SWG活動について 「学校教育情報化検討の方向性と内容についての提案」の意見交換
SWG2 会合 2003/ 3/25(火)	電気通信大学リサーチ 3 階	学校運営連絡協議会の積極的な活用について 学校評議委員制の導入活用について 教育SWGメンバーからの意見提出
第 1 回 SWG2 会合 2003/ 4/10(木)	調布市役所 6 階女子休憩室	参考テキストをもとに討議 学校インターシップ制度の導入協力要請について
第 2 回 SWG2 会合 2003/ 5/ 1(木)	市役所6階 図書教養室	他の自治体の教育・地域情報通信ネットワーク事業の先進事例研究 福田先生を交えた討論 新参加者紹介
第 3 回 SWG2 会合 2003/5/8(木)	調布市役所 6 階図書教養室	八王子市の平成 15 年度教育予算について 彩の国教育情報化推進計画 調布市情報政策のイメージ フリートークセッション
第 4 回 SWG2 会合 2003/5/15(木)	調布市役所 6 階図書教養室	学校評議員制度について 総務省「地域IT基盤施設整備事業」 教育の機能図・教育 SWG 中間発表の原案
第 5 回 SWG2 会合 2003/5/22(木)	調布市役所 6 階図書教養室	議論の素材 今後の進め方 学校インターシップ制度についての追加報告
第 6 回 SWG2 会合 2003/5/29(木)	調布市役所 6 階図書教養室	ILA についての追加報告 意見交換 新参加者紹介
第 7 回 SWG2 会合 2003/6/5(木)	調布市役所 6 階女子休憩室	社会福祉協議会主催「総合的な学習の時間」支援プロジェクト企画委員会 会について 開かれた学校と新しい学校とは 先進事例:三鷹市「学校・家庭・地域連携インターネット」とモニターについて
第 8 回 SWG2 会合 2003/6/12(木)	調布市役所 6 階女子休憩室	

報告

第9回	SWG2 会合	2003/6/19(木)	調布市役所 6 階図書教養室	ILA 追加調査と「調布市独自の研修機関構想」について 特別支援教育のあり方に関する調査研究会議・参加レポート 10月の「調布市地域情報化基本計画・教育 SWG 案」の新たな切り 口
第10回	SWG2 会合	2003/6/26(木)	調布市役所 6 階図書教養室	7月4日中間発表について 報告内容
第11回	SWG2 会合	2003/7/3(木)	調布市役所 6 階図書教養室	中間シナリオの最終確認 WSS 参加について 教育 SWG 内での要素のまとめ直しについて 新参加者紹介
第12回	SWG2 会合	2003/7/10(木)	調布市役所 6 階女子休憩室	10月のまとめの報告書について 次週までの宿題・次回教育 SWG の日時について 月曜日に集まったサポート会議の経緯 市の基本計画と地域情報化基本計画のしくみ ML について
第13回	SWG2 会合	2003/7/17(木)	調布市役所 6 階男子休憩室	次回のオープンゼミ運営と報告書のまとめについて 10月の報告の取りまとめについて
第14回	SWG2 会合	2003/7/24(木)	調布市役所 6 階図書教養室	調布市出前講座
第15回	SWG2 会合	2003/7/31(木)	調布市役所 6 階図書教養室	8月6日提出用の中間報告整理シート案について 調布市の社会教育
第16回	SWG2 会合	2003/8/28(木)	調布市役所 6 階図書教養室	中間報告まとめシート追加項目の提案について 計画執筆作業に加わる SWG 代表者の選任 計画書執筆者と教育 SWG とのフリートーキング
第17回	SWG2 会合	2003/9/4(木)	調布市役所 6 階図書教養室	中間報告整理シートB項目について 教育 SWG における計画書作成の分担について 計画書の文章化についての進捗状況の確認
第18回	SWG2 会合	2003/9/17(木)	調布市役所第8会議室	前回の会議に提出された「教育アクションプラン」の具体的な内容説明 教育 SWG に提出された目次案について 計画書・「S氏案」についての検討およびフリートーキング
第19回	SWG2 会合	2003/10/2(木)	調布市役所 6 階図書教養室	9月29日の WSS で提案された、計画書執筆協力者による目次案 の説明
第20回	SWG2 会合	2003/10/9(木)	調布市役所 6 階図書教養室	計画書執筆協力者と教育 SWG とのフリートーキング 今後の計画書作成の分担について
第21回	SWG2 会合	2003/11/1(土)	電気通信大学 西6号館 福田研究室内会議室	作業進行状況確認 今後の検討事項
第22回	SWG2 会合	2003/11/13(木)	調布市役所 6 階男子休憩室	計画書執筆状況に関する確認並びに目次項目の確認 コンセプト図の内容ならびに作成作業内容確認 その他
第23回	SWG2 会合	2003/11/20(木)	調布市役所 6 階男子休憩室	コンセプト図の作成作業内容の確認 計画書執筆作業内容の確認 その他

SWG3(行政サービス)活動報告

開催日時		会場	議題
第1回	SWG3 会合 2002/10/26(土)	電気通信大学 K 棟 207 号室	フリーディスカッション
第2回	SWG3 会合 2002/10/29(火)	電気通信大学サージュ 3 階	情報共有・提供の仕方について 市民参加、行政と市民の協働について
第3回	SWG3 会合 2002/11/5(火)	電気通信大学サージュ 3 階	フリーディスカッション
第4回	SWG3 会合 2002/11/19(火)	電気通信大学サージュ 3 階	初出席者への経過説明 を受けて、初参加者も交えたフリートーク 今後の進め方
第5回	SWG3 会合 2002/11/26(火)	電気通信大学サージュ 1 階	参考資料の簡単な説明 情報公開について 現在市役所からの 情報発信手段が、市報に偏っているのではないかとと思われる 電子 自治体 情報バリアフリー 市議会の問題点 1 月～3 月までの活動について SWG の位置づけについての確 認
第6回	SWG3 会合 2002/12/3(火)	電気通信大学サージュ 1 階	行政 SWG の議論の進め方について 行政サービス全般について 市民と行政の情報共有について 行政の情報発信を促すものにつ いて

SWG4活動報告

	開催日時		会場	議題
第1回	SWG4 会合	2003/1/11(土)	みさとや	ディスカッション IT 講習会について(案) 役割分担 自己紹介 経過説明 プレゼンテーション
第1回	SWG4 会合	2003/1/31(土)	調風	IT 講座 = 生活に役立つインターネット講座のアンケート内容に関して
第2回	SWG4 会合	2003/2/10(月)	電気通信大学リサーチ 1 階	活動報告 3月の IT 講座 その他のイベント 調布 FMでの番組構想
第3回	SWG4 会合	2003/3/4(火)	電気通信大学リサーチ 1 階	生活に役立つインターネット IT&キャロトケーキ講習会 NTTドコモ下見&ケーキツアー WG1 主催バス見学会
第4回	SWG4 会合	2003/3/25(火)	電気通信大学リサーチ 1 階	3月7日ドコモ下見会の報告・感想 3月15日・22日の IT 講座の報告・感想 IT 講座「生活に役立つインターネット」に参加されアンケートに答えてくださった方の対応について
第5回	SWG4 会合	2003/4/9(火)	電気通信大学リサーチ 1 階	調布 FM「市民の輪」企画の進め方について
第6回	SWG4 会合	2003/4/25(金)	電気通信大学リサーチ 1 階	「IT を使ってのキャロトケーキ作り」イベントについて
第7回	SWG4 会合	2003/5/2(金)	仙川ハーモニー事務所	「市民の輪」の企画について
第8回	SWG4 会合	2003/5/6(火)	電通大学横マクドナルド	調布 FM に提出するためのデモテープ作り
第9回	SWG4 会合	2003/5/16(金)	電気通信大学リサーチ 1 階	デモ MD 試聴 企画書の内容検討 運営方法の話し合い
第10回	SWG4 会合	2003/5/27(金)	電気通信大学リサーチ 1 階	運営母体 市報掲載 FM 番組 FM について FM 番組制作使用ソフトについて
第11回	SWG4 会合	2003/6/3(火)	電通大学横マクドナルド	放送期間 FM 放送番組作成に向けての作業・役割分担 出演者について みんな de ねっとの言葉について
第12回	SWG4 会合	2003/6/9(月)	電気通信大学共同研究センター 2 階	12 日の本番に向けて録音編集ソフトの取扱点検 番組 エンディングの収録 今後の活動に向けての話し合い
第13回	SWG4 会合	2003/6/12(木)	電気通信大学共同研究センター 2 階	FM 関係書類作成 来週の録音までの手順 新スタッフ について 今後の事について
第14回	SWG4 会合	2003/6/21(土)	電通大学横マクドナルド	FM 役割分担 今後の収録進行スケジュール確認・マ ニュアル作成 補助金と場所について
第15回	SWG4 会合	2003/6/23(月)	電気通信大学共同研究センター 113 号室	FM 番組打ち合わせ 中間報告について 音楽編集 ソフト・操作について ヤフーブリーフケース・カレンダー の使用法確認
第16回	SWG4 会合	2003/6/26(木)	電気通信大学共同研究センター 113 号室	第 2 回収録分の直前打合せ ゲスト二人との打合せ 本番収録 編集打合せ 今後のスケジュール確認 試 聴 納品の報告
第17回	SWG4 会合	2003/6/30(月)	電気通信大学リサーチ 1 階	中間報告会に向けての作業 話し合い 用語の使い 方について
第18回	SWG4 会合	2003/6/30(月)	キャンパスクリエイト	中間報告会に向けての確認
第19回	SWG4 会合	2003/7/1(火)	電通大学学生会館 2 階食堂	FM 出演日程はがき確認 8月進行役 ML 読者の みのメンバーの参加方法 中間発表の確認 補助金申 請 グルメツアー企画
第20回	SWG4 会合	2003/7/1(火)	キャンパスクリエイト	ボランティア活動と金銭関係 中間発表用パワーポイントの修正 中間発表以降の問題点
第21回	SWG4 会合	2003/7/8(火)	電通大学学生会館 2 階食堂	参加希望者についての対応 12 日のスタッフ 23 日 のスタッフ 今後の活動に対して
第22回	SWG4 会合	2003/7/12(土)	仙川ハーモニー事務所	8 月前半の放送予定収録 スタッフ参加者への対応
第23回	SWG4 会合	2003/7/23(水)	キャンパスクリエイト	8 月後半の放送番組収録 音声チェック・収録済みファイル を CD に格納 新規参加希望者への対応
第24回	SWG4 会合	2003/7/29(火)	電通大学学生会館 2 階食堂	調布 FM との話し合いについて 8 月当番について 9 月放送用ゲストとの交渉 FM 番組継続可否の件 消 耗品経費について 提案について
第25回	SWG4 会合	2003/8/7(木)	市役所 6 階図書談話室	事務連絡 調布 FM 9 月分役割分担 調布 FM「それ 行け! 調布のおばさん」の運営に関して みんな de ねっとの運営に関して
第26回	SWG4 会合	2003/8/19(火)	たづくり 11 階みんなの広場	8 月 21 日の FM 収録に関して 当番制について 9 月以降の FM 収録について 議事録アップに関して グルメツアーの企画に関して
第27回	SWG4 会合	2003/8/26(火)	市役所 6 階女子休憩室	執筆協力者からの自己紹介 WSS の報告 計画書 作成に関する今後の進め方について 調布 FM の打合せ グルメツアーに関して

第 28 回	SWG4 会合	2003/9/2(火)	市役所 6 階女子休憩室	計画書作成のための作業 を効率よく使うために	グルメア-について	ML
第 29 回	SWG4 会合	2003/9/18(木)	市役所 6 階図書室	FM 放送収録について		
第 30 回	SWG4 会合	2003/10/11(土)	調布南口サイゼリア	FM 収録 これからについて		
第 31 回	SWG4 会合	2003/10/19(日)	たづくり	HP 公開について	FM 番組について	
第 32 回	SWG4 会合	2003/11/8(土)	たづくり 11 階みんなの広場	計画書について		
第 33 回	SWG4 会合	2003/11/13(水)	たづくり 11 階みんなの広場	計画書作成について	メールについて	
第 34 回	SWG4 会合	2003/11/30(日)	たづくり 11 階みんなの広場	FM 打ち合わせ		
				第 1 案計画書について	FM 収録活動について	
				計画書作成のための見直し作業		
				計画書作成のための見直し作業		

WG2活動報告

開催日時		会場	議題
第1回	WG2 会合 2002/9/3(月)	電気通信大学サ-ジ-1 階	自己紹介 委員会の概要説明 WG2 主旨と検討の進め方 住民のネットワーク利用における現状と問題
第2回	WG2 会合 2002/9/30(月)	電気通信大学サ-ジ-1 階	新メンバー紹介 WG2 における検討内容について
第3回	WG2 会合 2002/10/7(月)	電気通信大学サ-ジ-1 階	新メンバー紹介 WG2 における検討内容について 日本インターネットプロバイダ協会による全国インターネットサービス実態調査の紹介
第4回	WG2 会合 2002/10/28(月)	電気通信大学サ-ジ-1 階	講演会「高度情報化社会の未来学 - 市民・大学・社会のあり方、変わり方」について 携帯インターネットの利用実態について
第5回	WG2 会合 2002/11/11(月)	電気通信大学サ-ジ-1 階	年度内の検討の進め方 ネットワーク利用実態調査の内容について WG2 の Web/メ-リングリスト担当の選出
第6回	WG2 会合 2003/6/4(水)	電気通信大学サ-ジ-3 階	今年度の主査、副主査の承認 アンケートの結果 今年度の課題と進め方
第7回	WG2 会合 2003/6/18(水)	電気通信大学サ-ジ-3 階	WSS メンバ-選定 アンケートまとめと結果 取り上げる検討テーマと担当者選定 情報収集(オープンゼミを利用)の方法 7月4日のシンポジウムについて 計画書作成に向けて 構成メンバーリストのアップデート
第8回	WG2 会合 2003/7/2(木)	電気通信大学サ-ジ-3 階	シンポジウムでの WG2 紹介内容について インターネット-センタ-について
第9回	WG2 会合 2003/7/17(木)	電気通信大学サ-ジ-3 階	報告書目次案について 調布市防災について
第10回	WG2 会合 2003/8/12(火)	電気通信大学サ-ジ-1 階	CATV、FM、インターネットの連携 拡大 WSS の WG2 メンバ-選出 携帯端末の活用方法について 情報リテラシ-他
第11回	WG2 会合 2003/9/4(木)	電気通信大学サ-ジ-1 階	インターネット、CATV、FM の連携 インターネット、CATV、FM の連携
第12回	WG2 会合 2003/9/18(木)	電気通信大学サ-ジ-1 階	コミュニティ Ver.2.1.1(イベントインダ-)の紹介
第13回	WG2 会合 2003/10/7(火)	電気通信大学サ-ジ-1 階	防災 福祉用端末
第14回	WG2 会合 2003/10/21(火)	電気通信大学サ-ジ-3 階	概念図について WG2 の役割 独居老人対策 無線 LAN
第15回	WG2 会合 2003/11/12(水)	電気通信大学サ-ジ-3 階	福祉用端末概念図 RMS の紹介 計画書担当分担の確認
第16回	WG2 会合 2003/11/28(金)	電気通信大学サ-ジ-1 階	概念図分担の確認(携帯端末、防災、無線ネットワーク、IDC)
第17回	WG2 会合 2003/12/12(金)	電気通信大学サ-ジ-1 階	原稿出稿状況の確認 無線ネットワークの拡充について
第18回	WG2 会合 2004/1/29(木)	電気通信大学サ-ジ-3 階	基本計画書 WG2 関連部分 防災無線ネットワーク提案 e コミュニティ

WG3活動報告

開催日時			会場	議題
第1回	WG3 会合	2002/10/3(木)	たづくり 602 会議室	WG の性格と位置づけ WG の進め方について 産業分野における情報化の現状について
第2回	WG3 会合	2002/10/22(火)	調布市役所 8 階第 8 会議室	産業分野における情報化の現状について
第3回	WG3 会合	2002/10/31(木)	男爵亭	IT による情報化
第4回	WG3 会合	2002/11/26(火)	調布市役所 8 階第 8 会議室	産業分野における情報化の現状についての補足 意見について
第5回	WG3 会合	2002/12/19(木)	渝園	第 4 回議事録と産業分野における情報化の現状 及び問題点・解決手段等の確認 報告書の提出 について WSS メンバ-選出要請について
第6回	WG3 会合	2003/6/6(金)	たづくり 601 会議室	中間報告書について 産業分野における情報 化の今後の進め方について
第7回	WG3 会合	2003/7/11(金)	たづくり 301・302 会議室	第 13 回調布市地域情報化基本計画策定委員会 の報告 産業活性化計画について、策定委員会 への報告の検討について
第8回	WG3 会合	2003/8/7(木)	男爵亭	第 14 回調布市地域情報化基本計画策定委員会 の報告 WG3 から WSS への派遣人事の追加に ついて WG3 のキャッチボール(案)についての検討 目次案 V1.1 への対応策について WG3 の課題検討について
第9回	WG3 会合	2003/9/9(火)	市役所 6F 男子休憩室	第 15 回調布市地域情報化基本計画策定委員会 の報告 WG3 から拡大 WSS への執筆担当者の 選任について 産業活性化についての市への提 言の検討について
第10回	WG3 会合	2003/10/14(火)	たづくり 601 会議室	WG3 の報告書について永野氏からの指摘 1 商店 1HP によって期待される効果についての意見
第11回	WG3 会合	2003/11/14(金)	たづくり 1103 会議室	1 企業 1HP について 基本計画書について

WG4活動報告

開催日時			会場	議題
第1回	WG4 会合	2002/7/29(木)	たづくり602 会議室	WG4 発足の経緯と趣旨の説明 福田先生によるオリエンテーション「地域情報化の動向」出席者の自己紹介と地域情報化について思うこと
第2回	WG4 会合	2002/9/20(金)	下石原地域福祉センター	9月6日「地域情報化を考える講演会」について概要報告 リートキング 今後の進め方
第3回	WG4 会合	2002/10/21(金)	たづくり3F304 会議室	9月6日「地域情報化を考える講演会」について概要報告 リートキング 今後の進め方
	小打合せ	2002/11/6(金)	シャノール	地域をどうとらえるか 地域情報化とは ありたい情報化の例示
第4回	WG4 会合	2002/11/11(金)	たづくり11F1102 会議室	フリ-討議
	WG4 会合	2002/11/25(月)	たづくり11F1102 会議室	具体的提案についての討議 絞込みの方向 宿題
第5回	小打合せ	2002/12/9(月)	たづくり11F みんなの広場	知りたい情報のマトリックス作成 論点の整理と今後の方向付け
第1回	WG4 会合	2003/9/2(火)	たづくり11F みんなの広場	報告 関連会議への出席者選出 新 WG4 と しての目次案検討 執筆協力者のヒアリング日程
第34回	WG4 会合	2003/9/16(火)	たづくり11F みんなの広場	説明と意見交換等 予定など
第35回	WG4 会合	2003/10/7(火)	たづくり11F みんなの広場	組織と運営について システムの実現に向けて 執筆分担について
第36回	WG4 会合	2003/10/21(火)	たづくり11F みんなの広場	生涯学習情報コーナーの紹介 計画書の執筆分担 困み記事または参照記事の執筆分担 議事録番号 11月の予定
第37回	WG4 会合	2003/11/4(火)	たづくり11F みんなの広場	計画書の原案検討 拡大WSSの報告
第38回	WG4 会合	2003/11/18(火)	たづくり11F みんなの広場	策定委員会の概要報告 計画書の原案検討

WG5活動報告

	開催日時		会場	議題
第1回	WG5 会合	2003/9/2(火)	電気通信大学共同研究センター 4 階	自己紹介 キックオフシンポジウム事前ミーティング
第2回	WG5 会合	2003/9/12(金)	たづくり映像シアター	シンポジウム「知の協働空間としての図書館」
第3回	WG5 会合	2003/10/7(火)	たづくり 602 会議室	キックオフシンポジウム報告 調布市立図書館から 策定委員会・各 WG のこれまでの活動説明
第4回	WG5 会合	2003/11/5(水)	電気通信大学リサーチ 1 階	調布市に提出する計画書の目次案説明 WG5 の今後の活動について
第5回	WG5 会合	2003/11/21(金)	たづくり 302 会議室	計画書の構成について
第6回	WG5 会合	2004/1/14(水)	電気通信大学共同研究センター 1 階	1 月 24 日講演会・市民フォーラムについて 今後の WG5 の活動について
第7回	WG5 会合	2004/3/5(金)	電気通信大学西 6-511	新メンバー紹介 16 年度活動報告 アンケート

WSS活動報告

開催日時		会場	議題
第1回	WSS 会合 2002/11/28(木)	電気通信大学リサーチ3階	市側 HP との連携 各 WG の ML、HP の必要性
第2回	WSS 会合 2002/12/13(金)	電気通信大学リサーチ1階	市側と福田研側の連携 各 WG の 1 行説明 各 WG の HP 必要性 WG 間の連携
第3回	WSS 会合 2003/1/20(木)	電気通信大学リサーチ3階	市側 HP 改訂版デモ ドコモとの協議報告 1 地域情報化に関する IT 講習
第4回	WSS 会合 2003/2/19(水)	電気通信大学リサーチ3階	市側 HP と html 議事録アップマニュアルデモ 地域情報化に関する IT 講座 バス見学会(WG1 提案) 各 WG 状況報告と活動計画
第5回	WSS 会合 2003/3/19(水)	電気通信大学リサーチ3階	IT 講座 サーバ-移転 IT 技術フェスタ
第6回	WSS 会合 2003/4/3(木)	電気通信大学リサーチ3階	IT 講座 サーバ-移転 IT 技術フェスタ
第7回	WSS 会合 2003/6/14(土)	たづくり 304 号室	新年度のバ-紹介 計画書の基本方針 IT 講座経過報告 WG・SWG 経過報告
第8回	WSS 会合 2003/6/18(水)	電気通信大学リサーチ3階	基本方針並びに目次構成案について
第9回	WSS 会合 2003/7/2(水)	電気通信大学リサーチ3階	基本方針並びに目次構成案について WSS のバ-について
第10回	WSS 会合 2003/7/15(水)	電気通信大学リサーチ3階	基本計画の骨子(目次)案について
第11回	WSS 会合 2003/8/6(水)	電気通信大学リサーチ3階	自己紹介 策定委員会報告 電子会議室の運用について 中間シンポジウムまとめシートについて 基本計画の執筆に関する確認事項 新たなオブザーバ-出席について
第12回	WSS 会合 2003/8/25(月)	電気通信大学リサーチ3階	中間まとめシートと目次案 Ver2.1.1 計画書作成に関わる覚書
第13回	WSS 会合 2003/9/29(月)	電気通信大学リサーチ3階	B 項目課題を反映させた目次案について 調布市および教育委員会との共催事業「IT 講座」の報告書案について

サポート会議活動報告

開催日時		会場	議題
第1回	サポート会議会合 2002/10/5(土)	市民センター	広報活動の展開 予算について 第2期オープンゼミカリキュラム WGの運営について 地域情報化の進め方 問題解決に向けて 戦略運営会議事務局(仮)
第2回	サポート会議会合 2002/10/12(土)	電気通信大学 福田研究室 K 棟 207	WG案 人脈教育WG 日程 有効な事務手続きについて
第3回	サポート会議会合 N/A	N/A	N/A
第4回	サポート会議会合 2002/10/26(土)	電気通信大学 福田研究室 K 棟 207	広報用資料作成の必要性 サイトの改善提案 参加者に会議ルールの徹底の必要性 WGに向けた会場設定について フォーシートサンプル提示は必要性 SWG 議事録の作成について ML への文書添付について
第5回	サポート会議会合 2002/11/2(土)	電気通信大学 福田研究室 K 棟 207	オープンゼミ開催日程 教育 SWG 広報 各 SWG の取組の援助 オープンゼミでの各 SWG の状況報告について 情報技術の勉強会
第6回	サポート会議会合 2002/11/9(土)	電気通信大学 福田研究室 K 棟 207	SWG の活動をどのように基本計画策定作業につなげるか 今年度報告の まとめ方について 広報活動におけるサポート会議の分担の必要性 市民参加を拡げたいという、サポート会議の意図が伝わりきっていないのでは ないか
第7回	サポート会議会合 2002/11/22(土)	電気通信大学 福田研究室 K 棟 207	今後のスケジュール 行政サービス SWG の参加人数が少ないことを補完する方 法について
第8回	サポート会議会合 2002/11/30(土)	電気通信大学 福田研究室 K 棟 207	工程表作成について これからのオープンゼミの予定について
第9回	サポート会議会合 2002/12/14(土)	電気通信大学 福田研究室 K 棟 207	親委員会からの報告 SWG 活動状況 新参加者用セット テクノロジー・アドバイザー・ボード
第10回	サポート会議会合 2003/1/21(土)	電気通信大学 福田研究室 K 棟 207	SWG 報告 国領再開発ビル公共スペース活用提案について 基本計画目 次(構成)案作成 女性 SWG

登録番号
(刊行物番号)
2003-255

調布市地域情報化基本計画
平成 16 年 3 月発行
編集・発行 調布市総務部情報管理課
182 - 0026 東京都調布市小島町 2-33-1
文化会館たづくり 西館 4 階
TEL 0424-41-6118
メールアドレス joukan@w2.city.chofu.tokyo.jp